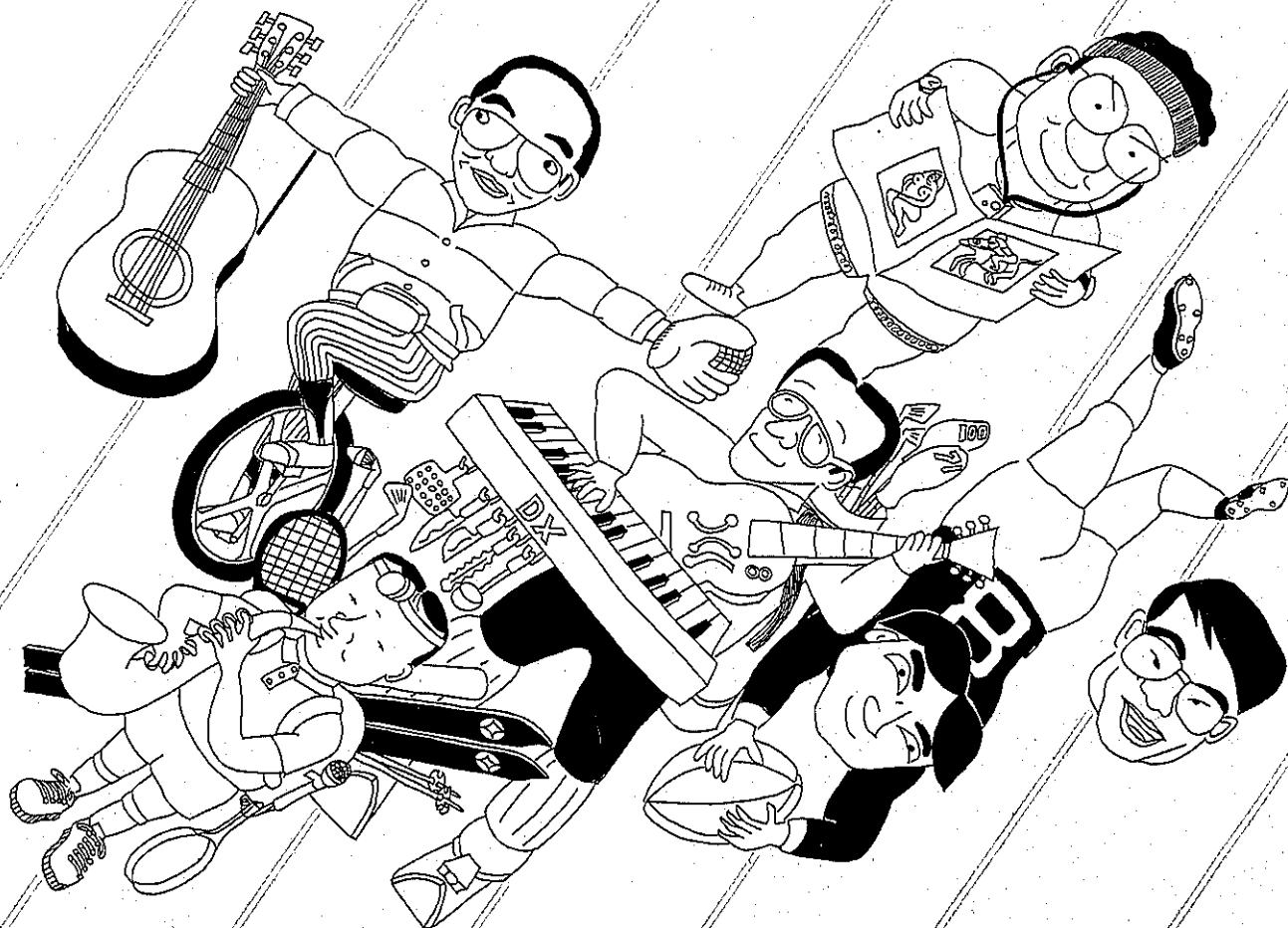


DLDALL

• 1990 •

300試合達成記念!



BERMUDAS

FEDALI

300試合

達成記念!

バミューダズ

目次

①バミューダズの顔	2
(ハイライト写真集)	

①やっぱりバミューダズ魂	5
(監督 塩瀬正明)	

①87～89年表彰選手一覧	9
---------------	---

①300試合への歩み	10
(87～89試合記録とタイムズ傑作集)	

①技術論	16
(永嶋仁)	

① 300試合達成記念文集
「究極の草野球」————— 19

① 第1部
わが野球人生,思い出のプレー—20

① 第2部 私のバミューダズ—37

① 第3部 祝詞————— 39

① バミューダズ・タイムズ名場面集—44

① 選手紹介————— 45

① OB及びマネージャー紹介—— 48

① 記録集————— 49

1990

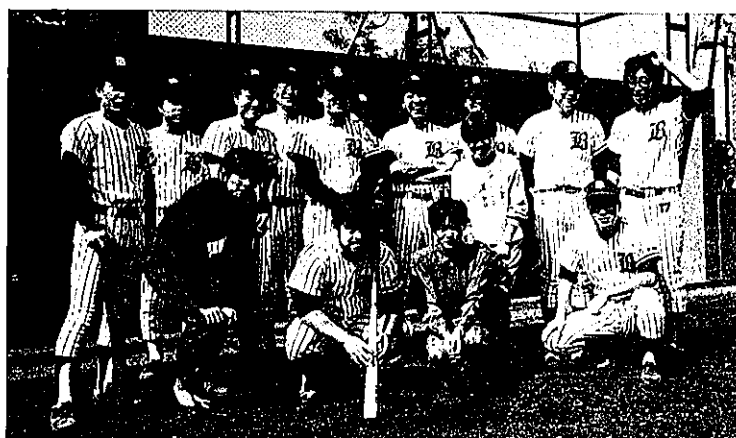
THE BASEBALL

BERMUDAS

バミューダズの顔



薄暮の決闘、オーシャン 3 度目の優勝(88年10月)



金子(克)壮行試合
米国のピザがなか
なか出なかった。
(87年10月)

横田選手登場
打点1は立派
(88年11月)





オーシャン連覇！ 7年間でV4!!(89年10月)

恒例の夏合宿(佐久)



今や
ホームグラウンド
佐久市営球場
(88年8月)

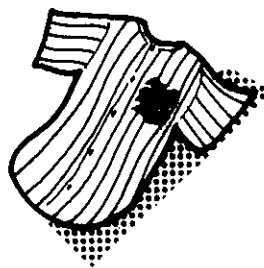
汗も輝く
楽しい夏合宿





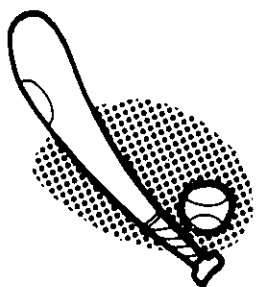
春合宿

88年からは伊豆高原
「山ゆり」に定着



納会

おなじみ、表彰式
(88年12月)



球団婚?!

厳粛な被露宴も
このとおり
(89年6月)



やっぱりバミューダズ魂

監督 塩瀬 正明

1. 300試合達成を記念して本号を出版することにした。

1976年にチームを創設して14年目の偉業である。

これ迄にも100試合毎に同様の本を出版してきているので本号は3冊目となる。本号は2冊目以降の1987年から1989年までの3年間の約100試合の記録を中心に編集されている。

これまでと違って1988年と1989年の2年間は鶴ノ木の多摩川辺りの麻布学園グラウンドを一度も使っていない。創設以来のホーム・グラウンドであっただけに一つの感慨を覚える。

「遊びに手を抜かない熱狂草野球軍団」を自称する、わがバミューダズはダイヤモンドの外でも精一杯、真摯な情熱を傾ける。それがこの本の随所に現われており、この本を通じて一人でも多くの人に「バミューダズ」を知って頂けることを嬉しく思っている。

2. 皆様への感謝

一口に「300試合達成」といいますが、プロ野球、社会人野球、学生野球はいざ知らず、こと草野球界に限ってみると、これは大へんな数字であります。ナイン各自の努力と研鑽だけでは、ここまでは来られませんでした。

バミューダズをこよなく愛するナインの純粋な気持が家族や応援してくれるファンの方々に伝わり、彼らの理解と暖かい支援となったからこそ、我々はプレーに打ち込めること

が出来たと感謝致しております。また相手チームあつての試合ですので、交流させて頂いた良きライバル・チームの方々にも、この場を借りて感謝する次第です。

それで、これまでにどこかで「バミューダズ」と係わりを持って頂いた家族、知人、友人、恋人、職場の方々、それにライバル・チームの方々、ファンの皆さん、大会関係者、グラウンドの管理人の方、合宿先のおかみさんたちに、この本を贈ります。

また、これから偶然「バミューダズ」と接触されることになる方々にも「今後ともよろしく」、「これからお互いに頑張ろうね」という意味を込めてご挨拶代わりにこの本を贈ります。

どうか、ご一読頂き、益々バミューダズを好きになって下さい。

3. チームの綱領

チームの野球哲学である「バミューダズ魂」が何たるかについては既に第1号の巻頭言「バミューダズの諸君へ」と第2号の巻頭言「『新人類』時代のバミューダズ魂」にて示したので、ご関心のある方は、これらを参照して下さい。

初めての読者のために要約すると、「野球道」ともいふべき精神野球をバミューダズは目指す、と訴えている。

その理由は、我々のチームは毎年、若い人が入団して熟年が引退してゆく新陳代謝が見られるチームではないことだ。一度入団する

と、そのまま「おじさん」になってゆくだけのチームである。従って、体力的には年々衰える一方である。走ること、投げること、打つこと、いずれをとっても学生や20代の若者チームに適いようがない。

しかし、それをカバーするものがある。それがhead workやチーム・ワークである。失敗から教訓を学びとり、攻走守の理論を体験学習で習得してきている。つまらないミスを無くす努力を重ねてきている。

具体的事例として1989年オーシャンリーグでのV4を示そう。

ホームラン・バッターや三振を取れるピッチャーがいた訳ではなかった。3割バッターも2、3人しかいなかった。それにも係らず優勝できたのは「勝つ野球」あるいは「負けない野球」をバミューダズのナインがよく知っていたからだ。自分は、今日この場面で何をすべきか、次の展開を予想して何を準備すべきかを常に意識して考え、やるべきことを実行してきたことがチームを勝利に導いたのだ。

こうしたことは試合当日だけの体験では身についていかない。やはり、春は伊豆で、夏は佐久で合宿を行って基本プレーとフォーメーションを確認してきていること、試合の終わった直後に必ず反省会を行い、良かったプレーとまずかったプレーを指摘し合っていること、ナイン各々が向上心とライバル意識を持って技術を磨く努力をしていること。などの総合にある。

ただ単にその場その場を楽しくやるだけでは技術は向上しないし、試合に勝つことはできない。試合に勝てないとトーナメント方式の大会がほとんどなので次の試合もない訳で、300試合などという数を達成することは出来な

かったであろう。この意味で「偉業」と呼んだのだ。

野球は年齢が若いから技能が発揮できるものではない。現にバミューダズの盗塁王、最多投手などのタイトル・ホルダーは20代の者でなく30代の選手である。こうした選手たちは自分のプライドを更に高めるため、ライバルの見えない所で努力を重ねている。すなわち一方では時間を見つけて素振り、バッティング・センター通い、ランニングなどを行っているし、他方では日常生活の中で食事、喫煙、アルコールの節制、エレベーターや車を極力使わない努力をするなどして、体と気持ちを週末の野球に集中させるよう仕向けている。

こういう一歩ずつの努力の積み重ねを「精神野球」と述べたが、「頭脳野球」、「集中力野球」、「努力野球」あるいは「向上心野球」と呼び替えてもよいだろう。

4. 燃える軍団づくり——強さの秘密

ナインの相互のライバル意識に火をつけ、闘争心を燃えさせて自己鍛練に労を惜しまないようにするためには、それなりの創意工夫、企画力が必要だ。

合宿、練習後の会食、納会などはどのチームでもやっているだろうが、バミューダズならではのアイデア企画をご紹介します。

第1がスポーツ新聞の発行だ。試合毎に持ち回り制でスポーツ新聞を執筆して発行している。執筆担当者は自分をヒーローに仕立て上げることができるという訳である。

これらの新聞とスコアブックの集大成が、3冊の本のベースとなっている。

第2が表彰制度だ。納会のことを「ドラフト会議」と称している。毎年12月にホテル・パシフィックのスイート・ルームを借りきってMVP、新入王、特別賞などの個人表彰を

行っている。表彰選手の名前を刻んだ豪華なトロフィや楯を贈ることにしている。これがナインの励みとなって、自己研鑽の目標となる。

勿論、罰金制度もある。無断欠席、遅刻、怠慢プレーなどを行った場合、罰金が課される。

第3がファン・クラブだ。やはり応援してくれる人がたとえ一人でも試合を見に来てくれると燃えるものだ。この為にスポーツ新聞の無料配布、合宿やドラフト会議に参加してもらって選手との交歓、喜んでもらえる芸能娯楽番組（講談、ギターの弾き語り、ゲームなど）を企画する。またスキーやテニスのイベントも催してきた。

第4が「名球会」の創設だ。チームへの貢献、参加度合によって名球会員になってもらう。例えば、100試合出場、30勝投手、80盗塁といった具合に、バミューグズで5年くらい暴れ回るとどこかの条件で名球会員になれる規約になっている。名球会員になると会費が高くなる。それと見返りにドラフト会議での年度表彰の選考委員になるなど、チーム内での責任が重くなる。

名球会員も多くなってきて有難味や権威が薄れてきたので「殿堂(Hall of Fame)」なり「元老院」を創ろうかと検討している。「殿堂」は投打に関し立派な記録を残した選手と球界発展に寄与した功労者のいずれかが選ばれる。

「還歴野球」を目指す我々としては、「殿」とか「院」に入ったきり出てこないのでは創立の精神とナインの本意に反する。あくまで現役としてプレーし続けることに意義があるので、1989年11月1日に開幕したアメリカの「シニア・リーグ」に見習おうと考えている。これはアメリカのプロ野球で活躍した35歳以

上の選手から成るチームがフロリダ州内に8球団あり、年間72試合を戦っている。日本と関係ある選手では阪神に居たランディ・バース、西武コーチのバート・キャンパネリスが活躍している。アスレチックスなどで通算191勝のバイグ・ブルー、ヤンキースなどで通算384本塁打のグレイグ・ネトルズなど往年の名選手がズラリと顔を揃えている。

第5がチーム内の分業制だ。中でも連絡網は強固で、これを通じて試合の日程通知と出欠とり、会費徴収、新聞配布などがスムーズに行われている。何といても9人のメンバーを確保することが試合成立の第一歩である。

全ナインの参画意識を高めるために、各種の大会に参加する手続きや窓口を担当する者、グラウンドを予約する係、試合の相手チームを見つけるための折衝する係、用具担当、会計係、ファンクラブ係、合宿係、新人スカウト係、球団史編集係などフロント業務を各々のナインが分担している。

各自がこれらの役割を果たすことを通じてナイン相互のスキンシップと信頼が深まり、試合に勝つ駆動力になっている。

5. たかが野球、されど野球

バミューグズでは個人の自己責任原則が貫かれている。チームやナインに自分のプレーを活かすためにサポートして欲しいと願うからこそ、本人はチームやナインのために犠牲的精神を発揮する。One for all, all for one. というラグビー精神がチーム内に脈打っている。

野球技術を磨くためには先づ自分を磨かなければならない。社会人として、人間として信頼され、愛される人間になろうとする努力の積み重ねこそが「バミューグズ魂」である。自己の鍛錬に厳しく他人にいたわりと寛大さ

で接する。そのために先づ自分の役割、責任を果たすことだ。

野球でいえば精神と肉体のバランスを緊張関係にしておくよう日頃の訓練を欠かさないことだ。

6. 夢

強いチームと数多く対戦することにより、チームと共に我々自身が成長してゆきたい。

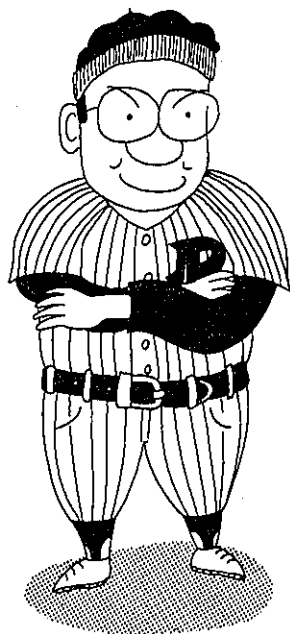
その一歩として品川区大会で優勝して丹波に凱旋することが永年の夢だ。いつかきっと実現させたい。

また海外遠征も具体化してこよう。

近年チーム内でもゴルフが流行ってきたが、やはり基本は野球だ。

諸君！ 一段上のレベルを目指すべく発奮しようではないか。

(1990.2.13記)



87～89年表彰選手一覧

87年度	M V P	渋谷 和明 選手
	優秀選手賞	北野 博基 選手
	新人王	北野 雅基 選手
	優秀投手賞	塩瀬 正明 選手
	衣笠賞（全試合出場）	永嶋 仁 選手
	シルバークラブ賞	奥 昭敏 選手
	谷岡ヤスジ賞	徳光 始 選手
	マネージャー賞	横田 明佳 さん
	ファンクラブ賞	佐藤みかささん
	ファンクラブ賞	水野 葉子 さん
	ファンクラブ新人賞	和地 葉子 さん

88年度	M V P	北野 博基 選手
	スーパースラッガー賞	渋谷 和明 選手
	最優秀投手賞	塩瀬 正明 選手
	沢村賞	建部 英敏 選手
	ベストコンバート賞	北野 雅基 選手
	脱四天王賞	徳光 始 選手
	感動をありがとう賞	横田 明佳 選手
	ベストプレス賞	居山 由彦 選手

89年度	M V P	建部 英敏 選手
	ゴールデンバット賞	宮嶋 功明 選手
	ゴールデンクラブ賞	北野 雅基 選手
	まだイナズマン賞 （盗塁王）	北野 博基 選手
	ベスト・コラー賞 （監督賞）	塩瀬 正明 選手
	ベストマネージャー賞	鈴木 恵子 さん

300試合への歩み

バミューズ 1987年の戦績

日産GC東京都大会進出

31戦22勝7敗2引分(勝率.759)

	月/日	球 場		スコア	対 戦 相 手	投 手	セーブ	備 考
1	3/22	サンスポ	●	0-5	越谷ヤジマーズ	●塩瀬		サンスポ大会 1回戦
2	3/28	八潮北	○	8-6	丸 文	○北野博		
3	4/ 4	鶴の木	○	4-0	エレファント	○塩瀬		オーシャン・リーグ
4	4/11	品川区営	○	8-1	エーコンズ	○竹内		オーシャン・リーグ
5	4/24	鶴の木	○	6-5	テックメイツ	○塩瀬	渋谷	オーシャン・リーグ
6	5/ 4	天王洲	●	0-7	ニューレックス	●塩瀬		品川区社会人2部 1回戦
7	5/13	大井中央	○	11-7	八潮ドルフィンズ	○竹内		定期戦(通算4勝1敗1引分)
8	5/16	鶴の木	○	6-0	ニューファイターズ	○渋谷		オーシャン・リーグ
9	5/22	天王洲	○	4-1	東 洋 水 産	○塩瀬	三浦	日産GC 予選1回戦
10	5/30	鶴の木	○	7-6	国内営業本部	○金子治		
11	6/ 6	大井中央	○	8-4	FROM A	○塩瀬		日産GC 予選2回戦
12	6/13	大井中央	●	1-2	国内営業本部	●北野博		
13	6/24	芝公園	○	7-1	JETRO	○北野博		定期戦(通算7勝5敗)
14	6/27	鶴の木	○	11-3	レイダース	○渋谷		
15	7/ 4	天王洲	○	5-0	ダンディーズ	○三浦		
16	7/ 8	大井中央	○	11-1	日本原図社	○塩瀬		
17	7/19	サンスポ	●	1-6	バ バ ス	●塩瀬		日産GC東京都大会1回戦
18	7/25	鶴の木	●	3-7	乃村工芸社	●北野博		
19	7/29	大井中央	△	5-5	八潮ドルフィンズ			定期戦(通算4勝1敗2引分)
20	8/15	大井中央	○	4-3	ダンディーズ	○北野博		オーシャン・リーグ
21	8/22	天王洲	○	7-0	岩田ボルト	○渋谷		
22	8/29	大井中央	○	12-1	八潮ドルフィンズ	○北野博		定期戦(通算5勝1敗2引分)
23	9/ 5	佐久千曲錦	○	6-2	長野相互銀行	○塩瀬	渋谷	第7回佐久遠征・合宿
24	9/13	大井中央	★	4-4	エンドレス			品川区民大会(秋) 1回戦
25	9/14	大井中央	○	7-1	ファイターズ	○塩瀬		オーシャン・リーグ 準々決勝
26	9/14	大井中央	●	0-2	クリッパーズ	●北野博		オーシャン・リーグ 準決勝
27	9/23	大井中央	○	6-3	八潮ドルフィンズ	○渋谷	生永	定期戦(通算6勝1敗2引分)
28	10/ 3	大井中央	○	2-1	健 保 連	○渋谷		
29	11/ 7	鶴の木	○	8-0	東京エレクトロン	○塩瀬		
30	11/14	豊島区民	●	5-6	ダンロップ	●渋谷		
31	12/ 5	大井中央	○	5-1	松下電器貿易	○塩瀬	金子治	定期戦(松下戦通算11勝1引分0敗)

☆☆(引分後 サドンデス・プレーオフ: ☆勝★敗)

我慢の逆転

国営は、ユニホームを一新し、スマイトで強
 そうに見える勇姿を多摩川土手に見せた。
 初回、先頭打者、平岡がセンター前ヒットで
 出塁、続く番橋本が、高バウンドでシフト

試合は、初回 2 回と先発・金子(遊)のストレートを狙い打ち、3 点づつ取った。国営の一方的ペースかと思われたが、3 回に 3 点、6 回に 4 点とリバシューターが逆転勝ちをおさめた。

見事な国営の先制攻撃

見たか、草野球魂を！ 永嶋満塁一掃

SONY 国内営業本部

ハ"	0	3
ニ		
2	0	3
1		
ダ"	3	0
ス"	0	0
	0	0
練習試合	4	0
	X	0
	7	6

ハ
ハ
2
1
ダ
ズ

練習

6月13日(主) 9:00-11:00 大井埠頭正面にて同いカードで再戦する
ことになった。沢山の応援ヨロシク

勝投手 金子 (治) 勝打 永山

〔負投手〕黒木〔本塁打〕橋本（金）

一九八七、五、三〇 鶏ノ木・麻布学園 グラウンド

B軍
今季8勝2敗

トネーバーのヒットで、
1塁走者、平間は3塁ま
で進んだ。3番坂井を捕飛で
一死。1塁走者が塁を離れた
のを見た捕手、徳光が1塁
送球。捕球後、体を一回転
した1塁手渋谷が氣を
抜いてゐる間に3塁走者平
間がホームインした。続く4
番、小原がレフトオバーの
3塁で2点目。5番打者
をサードゴロで打ちとり二死
となった。ニンで終りかと思
ひや、昨シーズン結婚でバシ
ス・タズを引退した西村が
ピッチャー生きたいた。6番

3. 1. トの元 B 軍戦士 4 村が
 金子のストリートをうすく合わせ
 てライト前にもどる。2. 目をとっ
 た。
 続く 2 回も 8 番岡に四球のあと、
 9 番岡に左内角の 2 塁打で 2 塁上
 走者が 1 塁にホームイン。これに 4
 点目。一死後、2 番橋本が 1 フト
 を越えるランニングホームマーで 2 点
 追加して 6 点。6 は 0 とな
 った。1 フト高さが 2 バウンドを止められた
 エラーや四球の連発がなく、2 回
 で 6 点も取られたりは B 軍史上
 初の屈辱ではなからうか。
 しかも今季、初試合のチームにお
 かれたとは……。

ハムスターズ 1988年の戦績

オーシャン V3 !

32戦23勝6敗3引分 (勝率 . 793)

	月/日	球 場		スコア	対 戦 相 手	投 手	セーブ	備 考
1	3/20	サンスポ	●	0-1	ニコニコスマイルズ	●塩瀬		サンスポ大会 1回戦
2	4/3	天王洲	★	2-2	品川ロビンス			品川区社会人2部
3	4/16	八潮北	○	7-5	八潮ドルフィンズ	○金子治		定期戦 (通算7勝1敗2引分)
4	4/23	八潮北	○	7-6	レイダース	○金子治	生永	
5	4/24	東大野球部	●	4-9	倍 賞 ズ	●竹内		倍賞野球場・道場開き (日刊スポーツ後援) 日刊スポーツに記事が載った
6	5/5	天王洲	☆	2-2	大井チカーズ			品川区民大会 (春) 1回戦
7	5/14	大井中央	○	17-0	健 保 連	○塩瀬		
8	5/21	羽根木	●	2-6	JETRO	●北野博		定期戦 (通算7勝6敗)
9	5/22	天王洲	●	0-7	明 電 舎	●渋谷		品川区民大会 (春) 2回戦
10	7/9	八潮北	○	10-4	レイダース	○塩瀬		
11	7/23	大井中央	○	6-1	テックメイツ	○塩瀬	建部	オーシャン・リーグ
12	7/23	大井中央	○	4-2	インパルス	○渋谷	三浦	オーシャン・リーグ
13	8/20	大井中央	○	9-3	ベガーズ	○北野博	塩瀬	オーシャン・リーグ
14	8/21	大井中央	●	2-5	明 電 舎	●塩瀬		品川区民大会 (夏) 1回戦
15	8/21	大井中央	●	0-5	ソニー野球部	●宮嶋		
16	8/27	佐久市営	○	7-2	長野相互銀行	○建部		第8回佐久遠征・合宿
17	8/31	天王洲	○	11-1	パワーズ	○塩瀬		オーシャン・リーグ
18	9/3	天王洲	○	10-2	エーコンズ	○建部		オーシャン・リーグ
19	10/8	大井中央	○	6-4	ライガーズ	○塩瀬		オーシャン・リーグ 準々決勝
20	10/15	天王洲	○	11-2	クリッパーズ	○建部		オーシャン・リーグ 準決勝
21	10/15	大井中央	○	4-2	エーコンズ	○建部		オーシャン・リーグ 優勝券 !
22	10/16	天王洲	○	3-1	早 月	○塩瀬		品川区民大会 (秋) 1回戦
23	10/22	大井中央	○	12-4	丸 文	○北野博		
24	10/29	江戸川区営	○	20-0	西 鉄	○建部		
25	11/3	天王洲	○	5-1	アーリーバード	○宮嶋		品川区民大会 (秋) 2回戦
26	11/6	天王洲	○	1-0	C I C	○塩瀬		
27	11/12	江戸川区営	○	3-2	松下東京支社	○金子治		定期戦 (松下戦通算12勝1引分0敗)
28	11/13	大井中央	○	9-2	M B T	○建部		品川区民大会 (秋) 3回戦
29	11/19	大井中央	○	4-2	健 保 連	○金子治		14連勝
30	11/20	天王洲	★	1-1	フレンズ			品川区民大会 (秋) 4回戦
31	11/26	第一生命	○	5-1	JETRO	○塩瀬	宮嶋	定期戦 (通算8勝6敗)
32	12/3	天王洲	○	9-3	経 団 連	○宮嶋		

☆☆ (引分後、サドンデス・プレーオフ：☆勝★敗)

BERMUDA TIMES

(内山)

No.248

バミューダス 東大グラウンドに散る

人工芝

① 88年4月24日 東大野球部グラウンド(本郷)にて
 バイショーズ 300 02139
 バミューダズ 100 00034
 勝投手 渡辺 敗投手 竹内

東大野球部のグラウンドで試合、しかも人工芝、相手は往年の高校野球のスター倍償明氏率いる強豪チーム、となれば、遊びに手を抜かないバミューダ魂は、赤に燃えさかす。
 グリーンウィーク目立前の日曜日、明るいうちさし、下緑に囲まれた東大キャンパス。女優さんのようなユニフォーム姿の美人の始球式でプレーボール。

Ⅶ
 どうした竹内?
 初回、早くも自滅

この晴れの舞台でバミューダズのマウンドを踏むのは、あの因幡なれ事件のヒーロー、竹内。淋しい河原のグラウンドでしか投げたことのない彼は、あまりの環境の変化に順応できず、完全に下がっていた。
 ボールを離す直前までは、時速150kmの壁をたどるフォームと、このが、ボールが手を離れる瞬間から、時速60kmの軟投フォーム。

球筋定まる、四球の連続。なんと打者九人に対して四球五死球。ヒートは一本も打たれていないのに(こゝれでは打てるわけないか?)、三連降抑し出して一回表、早くも0-3。

Ⅱ
 攻めあぐさ
 バミューダズ
 この日塩瀬監督は海外出張で留守。代りに指揮をとる藤本監督は、予想外の乱調に言葉も少ない。二回からは、早々と法合にスイッチ。期待はたいて法合は四回まで、バイショーズも無傷に抑えた。

一回裏、バミューダズは反撃。奥のヒットを足場に、二死三塁から、永嶋のサードゴロ、フィッツチアイスの間に奥の好走塁で一点を返した。

おわび・旧聞となり申しわけありません。6月5日同スポーツに記事あり。存続この試合は、倍償野球道場の道場南で試合であった。

バミューダズ 1989年の成績

オーシャン V4 !

27戦 14勝 11敗 2引分 (勝率 . 560)

	月/日	球 場		スコア	対 戦 相 手	投 手	セーブ	備 考
1	3/18	大井中央	△	0-0	八潮ドルフィンズ			定期戦 (通算7勝1敗3引分)
2	4/19	大井中央	●	0-7	八潮ドルフィンズ	●塩瀬		定期戦 (通算7勝2敗3引分)
3	5/20	天王洲	○	5-1	西 鉄 航 空	○塩瀬		
4	5/21	天王洲	●	3-7	J R 東 海	●建部		品川区社会人2部 (春) 1回戦
5	5/27	青山墓地	○	12-4	健 保 連	○金子治		
6	6/17	羽根木	●	2-3	JETRO	●北野兄		定期戦 (通算8勝7敗)
7	7/08	江戸川区営	●	2-10	駒 沢 大 学	●塩瀬		
8	7/15	厚木工場	○	1-0	マグネスケール	○宮嶋	三浦	第4回・ソニー選手権 1回戦
9	7/15	厚木工場	●	0-1	厚 木 工 場	●三浦		第4回・ソニー選手権 準々決勝
10	7/21	天王洲	●	5-6	ダンディーズ	●塩瀬		オーシャン・リーグ
11	8/11	天王洲	○	9-1	カセッターズ	○建部		オーシャン・リーグ
12	8/12		■	不戦敗	パ ワ ー ズ			オーシャン・リーグ
13	8/12	八潮北	●	7-8	ドルフィンズ	●宮嶋		オーシャン・リーグ
14	8/19	大井中央	○	3-2	テックメイツ	○宮嶋		オーシャン・リーグ
15	9/02	江戸川臨海	■	不戦敗	クリッパーズ			オーシャン・リーグ
16	9/03	天王洲	○	6-3	Abco II	○塩瀬	建部	品川区民大会 1回戦
17	9/09	江戸川臨海	□	不戦勝	グリフィンズ			オーシャン・リーグ
18	9/09	江戸川臨海	○	8-0	グリフィンズ	○宮嶋		
19	9/23	多摩川緑地	○	6-0	レ コ ー ズ	○建部		オーシャン・リーグ 準々決勝
20	9/30	多摩川緑地	○	10-4	パ ワ ー ズ	○塩瀬		オーシャン・リーグ 準決勝
21	10/01	大井中央	○	3-0	Batsu	○宮嶋		品川区民大会 2回戦
22	10/01	大井中央	☆	1-1	全 通 大 崎			品川区民大会 3回戦
23	10/08	天王洲	■	不戦敗	イ マ ジ カ			品川区社会人2部 (秋) 1回戦
24	10/10	天王洲	●	3-4	ルーキーズ	●塩瀬		品川区民大会 4回戦
25	10/14	八潮北	○	4-1	ライガーズ	○建部	塩瀬	オーシャン・リーグ 優勝券 !
26	10/28	江戸川区営	○	6-1	丸 文	○建部		
27	12/02	江戸川区営	○	6-0	八潮ドルフィンズ	○建部		定期戦 (通算8勝2敗3引分)

☆★ (引分後) サドンデス・プレーオフ : ☆勝★敗

通算306戦 193勝 83敗 30引分 (内、4不戦勝 4不戦敗)
(勝率 . 699)

技 術 論

永嶋 仁

バミュダーズが120試合にさしかかったころ、3人の若者と1人のおじさんが入団した。翌年84年、若者の1人が3冠王を達成し、その実力をみせつけた宮嶋である。そして、320の打率を残し新人王に輝いた吉田である。もう1人の若者は遅咲きながら86年に春団治賞を、391の高打率で獲得した松本(浩)であった。そしてその時のおじさん、今でもおじさんが90年新春に『技術論』を書いています。

建部、藤本と高校・大学で活躍した選手の後を受け持つのは、いささか役不足ですが彼らと違ったところから見た技術論についてまとめようと思っています。

話を進める前に私の運動歴から紹介させてもらいます。小学校の5年から軟式野球、ソフトボールで連続6三振。中学の3年間野球部、2塁ランナーでショートゴロをよけようと思って顔面に受け引退。高校の3年間陸上競技部、2年後半に足を痛め新聞部(関係ありませんが)3年に中距離で東京都代表。以後ジョギング、サッカー、テニスそして野球を10年ぶりに再開。肩を痛めて83年に入団。現在にいたる、私の運動歴での財産は野球以外のスポーツから野球を見つめてきたことだと自負しています。しかしながら運動では当然実績がものをいいます。難しい理論を振り回しても「やってみせろ!」と言われるのがおちです。ここでは長い運動歴(?)の中から自分が経験してきた3つの事についてふれてみたいと思います。

- 1 夢を見る。
- 2 筋肉について。
- 3 視空間について。

高校1年の冬休み。晴海スケートリンク(昔有りました。)手すり磨きの私とその夜、夢を見ました。目の前をスイスイ滑るスピードスケートの選手。なぜか部分的なところが見えてきました。膝、足首、手の振り……そして、なんと翌日スイスイ滑ることができたのです。バックスケエティングも即座にできるようになりました。ある程度運動神経があるならば、これらのことは簡単なのでしょうが、20年前のことが今でも記憶に残るのは夢が実現した数少ないできごとなのですから。

話を本論に戻すとイメージトレーニングが脚光を浴びたのが10数年前だと記憶しています。日本での有名なたとえはインスブルックで惨敗しカルガリで復活したスビー

ドスケートの黒岩選手だと思う。自分の経験がオリンピック選手のそれと同じだとは思わないが野球がうまくなるためには一流選手のフォームをいつもイメージし自分のものにすることだと思います。そして貴方は一夜明けたら一流選手になっているかも知れない。

夢を実現させるためには何が必要かと問われたなら私は自分の意志がすばやく反応する筋肉だと答えるでしょう。高校の時に陸上競技部にいたせいか筋肉の事についてはたえず考える時間をもっていました。長距離ランナー、ロン・クラークの名を覚えている人は陸上競技に精通した人でしょう。なぜならばオリンピックのゴールドメダリストの中に彼の名前がないからです。数々のワールドレコードをうちたてながらもオリンピックで活躍する事ができなかったのです。その原因をトレーニング方法だと指摘した人がいました。長い距離をひたすら走るクラークのトレーニングでは大切な時(オリンピック)に体調をピークにもってこれないと結論づけています。インターバルトレーニングやレペテーショントレーニングそして野外走(クロスカントリー:マラソンのロベスが有名)を提唱しています。トレーニング方法は時代により変化しています。時の勝者のトレーニング方法が最適かと言うとそうでもあるし(実績)また無理して挫折した人も多いとおもわれます。先日、ニュースステーションで少年野球から肩痛がなくなったというリポートがありました。『投球の時バックスイングをしない』という方法でした。医学的には発育途上の筋肉に負担をかけないと言う事だろうと推測していました。当初、まちがえがないと思ったプロの指導を受けた時、肩痛が続出した事から独自に考案した方法で、コントロールが格段に向上した事(たぶんスピードは落ちたのでしょう)、優勝回数が増えた事、などでした。このアイデアはたぶん現場レベルの人からでしか出てこなかったでしょう。我々が使えるかどうか疑問です。また、私自身にも次のような経験があります。30才を過ぎた頃、青梅マラソン(30km)の日程が迫りトレーニングが消化出来ず完走できるかどうか不安でした。高校の時に陸上競技をやっていたプライド?から動的な筋肉トレーニングしか考えていませんでした。残業やつきあい、そして子守りで時間がとれない時、子供を抱いてストレッチを行うなどして静的な筋肉をつける事に専念しました。タイムを競うアスリートから完走を目的とするジョガーに変身しました。そして目的は達成されました。自分自身が目的とする筋肉はなんなのかを考えトレーニングを続けたらいかがでしょうか。

私のバミューダーズでの肩書はオーシャン担当と外野守備コーチを与えられています。中学で野球部の時も外野をまもっていました。地元の野球クラブでも外野をまもっています。外野守備でよく経験することは久しぶり守備につくと外野フライが意外に難しいのです。どのへんにボールが落ちてくるのか判断に迷う事があります。なぜか

の疑問に理論的に説明してくれたのは『科学するテニス』の著者蝶間林(ちょうまばやし)先生でした。この本のなかでスマッシュを正確にうつためにのところで視空間という言葉がでできます。視空間とは何かというと地上で生活している我々は5m先、または10m先を簡単にあのへんだと指さす事はたやすいけれども空に向かって5mの点、または10mの点を指さす事は意外にたいへんだということです。同じ距離を指さすのに地上と空では感覚が違って来る、いわゆる視空間のゆがみが存在すると書いています。視空間のゆがみを解く方法はイージーなフライを数多くあげてスマッシュをして視空間に慣れる事だと結論づけています。外野フライを簡単にとるためにはどうしたら良いかわかりになったでしょう。

技術論を書けと言われたときに大きな疑問が生じました。それはレベルをどのへんにおいたらよいかということです。高校や大学で活躍した人もいれば社会人になってから始めた人もいます。どの人にも納得してもらためにはどおしたら良いかなどと色々考えてみましたが私なりには自分自身の経験やその過程で考えた事を書いて見ました。文章のなかでは特にどおすればよいかの具体案はできる限り示しませんでした。この愚論のなかで何を感じ考えたか、また実行したかが個人個人のレベルであり抽象論で文章を書くことがレベルを超越するものだと思っています。暖かくなって野球で自由に働けるように頭を、身体を寒い時期に鍛えましょう。それではグラウンドで!

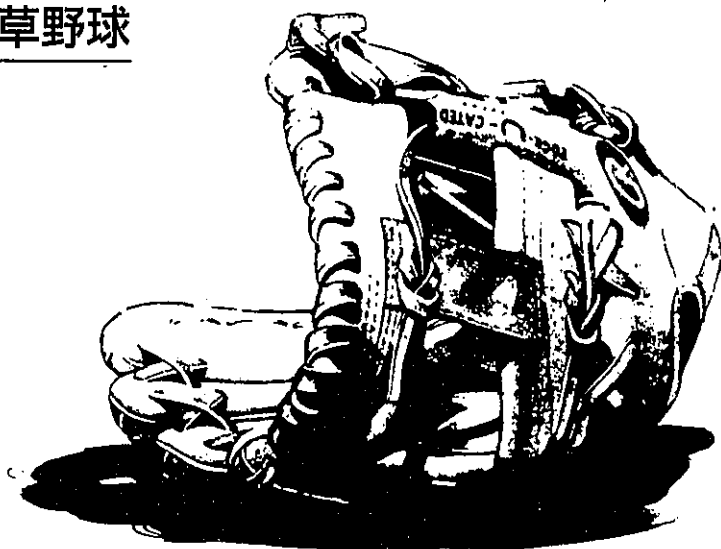
.90年東京に初雪が降った夜に。



きょうも勝った、輝く笑顔。 永嶋氏(中央)。

300試合達成記念文集

究極の草野球



野球季旬

吉武 和則

桜咲く

心ウキウキ

初打席

ホームラン

ビールがうまい

蟬の声

盗塁で

汗鍛えて

運動会

北風に

デッドボールで

身にしみよ

第1部 わが野球人生、思い出のプレー

感動・感激・思い出

居山 由彦

その時、自分の膝は確かにガタガタと震えていた。七回裏、二死満塁のピンチを迎えて守備につくバミューダズナインの顔には悲劇的な緊張感が支配していた。

1985年10月5日のことである。1年間のオーシャンリーグ公式戦を勝ち抜いて最後の決勝戦にのぞんだのは、わがバミューダズと、片や、チームメイトでもある金子(治)と三浦を核に力強くまとまった宿敵レコーズであった。試合は接戦ながらもバ軍リードで迎えた最終回、塩瀬投手が突如乱れ、押し出しの四球で同点。なお、満塁で、逆転サヨナラ負けのピンチである。この段になってようやく、渋谷が救援として登板。しかしながら、肩痛が多少あり、ウォームアップも満足にしていない状態。

不安だった……。渋谷がビビらないか……打球が来た時、皆が落ち着いて守れるか……。

しかし、渋谷の球は生きていた。想像以上の力強さでレコーズの打者を押え込んだ。

甦った……。ほとんど負けを覚悟さえしていたバ軍選手が緊張感から解放されて、ベンチに戻ってくると、過去にレコーズに負けていないという自信が湧いてきた。

延長8回表、その時の先頭打者は私だった。投げる投手は金子(治)。左対左の対決だったが、私は不思議に自信に満ちていた。前の打席でカーブをヒットしていた私への初球、私

は100%ストレートを待っていた。

来た、内角高目だ。振り抜いたバットは快音を残し、打球はライトの頭上を越えた。

この2塁打のあと、送りバントで3塁へ行った私を、奥がセンター犠牲フライで生還させてくれた。これがこの優勝戦の決勝点となった。この時、胸上げをした喜びはあとにも先にもない程の感動であった。

そして、今から振り返ると、渋谷が投手として豪速球を投げられた頃でもあり、私が左打ちでライトオーバーの長打も打てたという輝かしい青春時代の思い出として、貴重な1ページでもある。

以上が私にとって野球の中で一番感動した試合であるが、さて、別の側面からここで付け加えたい感激のプレーがもう一つある。

それは天才弾き語り、ミスター藤本である。この人の「吉岡松陰シンガポール恋物語」、「お満、小鹿に触わった事件」や「ドキュメンタリー、土俵上の大きな力士にや、小さな××××が付いている」などの弾き語りを初めて聞いた時の衝撃はいかばかりか……。

その衝撃の凄さは、私を一気にニュー講談完成へと走らせてしまった……。

芸の道にはライバルが必要なのだ。

思い出の一戦

鈴木 満夫

私が、バミューダーズに入ったのは、藤本選手の誘いで'81年に入団した。

当初は運動不足解消のつもりと考えていた

が本格的にやっているのです、私自身も次第に、のめり込んで、やるようになって行った。

入団した当時はピッチャーが不足していたので、私にも投げる機会があり、何回か投げるうちにピッチングにも慣れ肩が出来てきた。
[思い出の一戦]

'82年春品川リーグの初戦は、バミューダーズの合宿と重なり選手が集まらない。そこで協力会社をお願いして、やっとなのおもいで9人集め、私は、マウンドに上がった。その日は風が強くポカスカ打たれ、6回裏でコールド負け寸前の3対9まで行った。ところが風が我々に味方したのか7回表に一気に大量9点を奪い逆転した。7回裏は簡単にツーアウトとなり、最後のバッターの打球は、左中間にライナーで飛んだが、予め左に寄っていたセンターの小林選手が好捕し勝利を得た。

ボールを捕った瞬間は今でも私の目に焼きついている。まさかこの試合が品川リーグ・ベスト8まで行く初戦とは、夢にも思わなかった。

夢と消えた大記録

宮嶋 功明

いずれの御時にか、草野球チーム多くさぶろう中に、いとやんごとなききわにはあらねど、ときめきたるありけり。その名をバミューダーズと申す也。

我一員此草野球組。我語最印象的試合。

という事で、いくつか印象に残る試合の中で最も印象に残っている試合について書く事にします。(本来は感動した試合という事です。)

悪い印象として残っているのは、昨年(の)八潮北での大乱調の2試合であります、おめ

でたい300試合記念号ですので、良かった試合について書く事にします。

あれはまだ元号が昭和だった時代の事であります。昭和何年だったかは良く覚えていないのですが月日は忘れもしない6月17日でした。何故忘れないかと申しますと、私めの誕生日だからです。

この試合私めは先発・完投(7回)し、三振14個を取った上に、ホームランまで打つという吉日でありました。

この試合何故印象に残っているかと申しますと、大記録をのがしたからです。大記録とは、完全試合ではありません。それよりも難かしいと思われるものです。

最終回の守備についた時、ずっと一塁を守っていた居山さんが、私めにこう言ったのです。「今日はまだ一人も一塁フォースアウトが無い！」野球史上こういう記録が達成された事があるかどうか知りませんが、実に珍しい記録なので、残り三人三振で………と私はいきこんだのであります。

そして、2アウトまで、三振とフライでアウトを取ったかと思えます。(その間にフォアボールで出たランナーが、強肩時代の徳光キャッチャーのホームからセンターを抜ける大暴投で一点献上というのもあったかと思えます。)そして運命の3アウト目、三塁へ平凡なゴロ。エラーもなく一塁アウトで大記録は消えたのでした。

私のバミューダズ

小林 剛

私が7年間の駐在員生活を終え、再入国を決意したのは、広島カープ張りの頭脳プレーと、高校野球以上の猛練習を誇りとする、バ

一ミュージダースにて、十二分にボケた頭と、鈍った体を鍛え直して頂きたいからです。

第2に、私の入団した1977年、今日の隆盛を築いた勇者達と誓った「40才まで野球を続ける」を遵守したいからです。

(本年出来る丈早い時期に登場しますのでヨロシク)

バミュージダースの特徴は、何ととっても300試合という大きな数字の中にあります。社内社外の幅広い交友とチームの強い絆にある。駐在員時代、本社から送られるソニータイムスより、バミュージダースタイムズにどれだけ感動を覚えたか、遠く離れても、チームの一員である喜びと、皆様の活躍に、胸躍る気持ちで一杯だったのです。(本当に感謝しお礼申し上げます)

さて私の感動した試合、プレイは、7年以上、時を戻す必要がある。当然ながら記憶もかなり曖昧になっている。(という事はいい話が誇張されるのです。)確か夏の佐久合宿でルー・ファミリーとの対戦で、甲子園出場経験ある投手から2本のヒットと打点をあげた試合が、生涯一番の思い出である。残念ながら試合は負けましたが、前後してのテニス、夜の大演芸大会と、徹底したお遊び心は今思い出しても楽しい。

(是非共、今夏の合宿には参加したい)

当然、次の目標は、400試合達成にあるわけで、3～4年かかろうが、その時、日本にいれば、代打でもいいから出場し、その偉業を皆様と心から味わいたい。それが私の夢であります。

私が一番印象に残った試合

岡本 直樹

私が、歴史あるバミュージダースの一員となったのは、1988年の3月の終りだった。過去、2シーズンの中で、私の脳裏に今も、鮮明にやきついている試合とは、入団して2試合目、東京大学本郷キャンパスで行なわれた倍償ズとの試合である。まだ、私の背中には、栄光の背番号"3"はなく、グレーのスウェットを着て試合に出場していた時のことです。

当日、私は、近所に住む鍵田と一緒に、1ヶ月前に4年のローンを組んで買ったばかりの、新車のアコードで本郷へと向かったのである。博多っ子の私は、生まれてはじめて東大の赤門をみたとき(その門は、固く閉ざされていたが)、感激したものであった。しかし、それが悲劇のはじまりであった。グラウンドに入るため、私は、赤門のとなりの車一台分開いた、通用門の方へ愛車を向け、通ろうとした。しかし、当時私は、まだ運転に慣れておらず、細かい動きが苦手であった。門を通る瞬間、横に乗る鍵田が驚きの表情を浮かべる。"ガリッ"。左の方からにぶい音がした。車をあわてて降りた私は、左のドアミラーにしっかりついた一本の赤い線を見て、がく然と立ちすくんでしまったのである。ピカピカの新車を傷つけてしまったショックと自分に対する憤りを私は、自分にぶつけた。後半から出場した私は、最終回、それまで自軍が打ちあぐんでいた倍償ズの"元"甲子園球児から、満塁の走者一掃の3塁打をはなち、一矢をむくいたのである。この試合は、日刊スポーツにも報じられたので、覚えておいでの方も多いであろう。今でも、私は、サイドミラーの傷を見るたびに、この日の事を思いだすのである。そ

して、一言つぶやくのであった。

“私にとって、やはり東京大学は狭き門であった。”

私が一番感動した試合・プレー

北野 雅基

私が一番感動した試合・プレーは、1989年7月15日、ソニー選手権の準々決勝、厚木工場戦である。試合結果を前に言うと、0対1でバミューダズズの敗戦である。しかし、今までの数ある敗戦の中で一番悔しく、一番楽しい敗戦であった。

相手はすべての面で格上のチームであったが、バ軍の投手の三浦さんの出来、特にストレートがすばらしく、サインの99%がストレートであった。強烈な打球が野手の正面をついたりして助けられた所もあったが、試合は途中まで0対0の緊迫した好ゲームであった。

私の一番感動した試合の唯一の失点、このプレーが私の一番感動したプレーである。そのイニングはランナー一、三塁のピンチであった。しかも、三塁ランナーが相手チームのキャッチャーであった。自分がキャッチャーをしているので、相手のキャッチャーにはかなり注目していた。内外野がきびきびした動きの中で、ひときわ目を引いた選手であった。チームのリーダー的存在にも見えた。

三塁ランナーの動きを見ても、何かやってくると思った。その通り一塁ランナーが走ってきた。この場面で2塁へ送球しない事も考えたが、そうすれば相手が抑え抑えモードになると思い、全力で二塁へ送球した。定石どおり三塁ランナーが本塁へ突っ込んできた。こちら二塁手の藤本さんがカットして本塁へ送球してきた。自分も左足でホームを隠し

懸命のブロックをした。ランナーのスライディングが自分の左足をめがけて襲いかかってきた。「セーフ」唯一の失点である。この回チェンジになってベンチにもどって初めて、左膝のユニフォームが破れ、血がにじんでいる事に気がついた。

グラスの向うに甦るプレー

北野 博基

最終回もあと一人アウトに取れば試合終了。シーズン最後の試合としては、まったくしまりのない内容になってしまった（あるいは、しまりのない内容に自らしてしまった）ため後味の悪い終わり方になってしまいそうとき、しかもグラウンド管理人が利用時間の終了を告げる放送を始めた。「ただちに試合を止めて、グラウンドの整備を始めて下さい。」

その言葉が終わるわずか数秒前に建部投手が投げ込んだ白球は、相手打者には絶好球になり、バットの真芯にとらえられ鋭い球音を残しライナーで三遊間に飛んできた。反射的に右に二歩ばかり走りそのあとダイビングした私のグラブには、まるで計算されていたかのように白球が吸い込まれていた。試合終了。グラウンド管理人の放送がまるで試合終了を知らせるサイレンの様に静かに余韻を残していた。

劇的なエンディング。テレビで見る遊撃手のダイビングキャッチのシーンが、自分の姿と重なってくる。華麗な横っ飛びでボールを捕えた自分の姿が、その後、何度脳裏を駆け巡ったことであろうか。自分のプレーに自分で酔ってしまうとは、まさにこれを言うのであろう。

バミューダズズの6年間のプレーのうちで、

印象に残るプレーは数え出すときりはない。本塁寸前で足がもつれて本塁打を逃したこと(1年に2度経験した)、居山選手がグラブの土手にあてて捕りそこねた飛球を横で捕球した珍しいプレー、左翼鈴木選手が好捕した後に、左翼～遊撃～捕手の連けいで三塁走者を本塁封殺、渋谷投手の二塁けん制悪送球が外野を転々と一塁走者までも生還した試合、藤本選手のサッカー。たかが草野球ではあるが、プロ野球にも劣らない好珍プレーを時々目にすることができる。プロ野球と違い、いつもこれらのプレーがビデオに記録される訳ではないが、バミューダズ戦士達の記憶のアルバムには色退せることなく彩やかに残ることは間違いない。

それぞれの心のアルバムから持ち寄ったプレーをつまみに酒をくみ交わすとき、そのときがまた何よりも楽しいひとときになるのである。試合終了を告げるダイビングキャッチは今、そのつまみのひとつとして名を連ねるのである。

さあ、バミューダズの諸君。今夜もまた、思い思いのつまみを手に、バミューダズバーで飲み、語り明かそうではないか。遙かなる時間の流れを超えて。

バミューダズ最老令選手

飯田 克美

いろいろ思い出はありますが、全て昔の話。こんな年寄りをいつまでも使ってくれる「仏」の塩瀬監督に感謝しております。又、今後バミューダズがもっと飛躍する為にはどんどん若い選手に伸びてもらいたい。

今回の球団誌第3号のこの記事は特に私の最愛の妻に捧げたい。今日までバミューダズの

一員として野球を続けられたのは、全て女房の理解と協力があったからでしょう。急に試合となっても何一つイヤな顔をせず(ただ、コメカミをピクピクさせるだけで)ユニフォーム等を揃えてくれます。有りがたいことです。これから体の続く限り、時間の有る限りバミューダズの選手の一員として参加したいと思っていますので、もうしばらく協力して下さい。

ああ我が草野球バミューダズ

建部 英敏

「ああ、我が草野球バミューダズ」。この言葉は、私の心の底からわき出て来るものだ。そんな感じがしてならない。

我がバミューダズのモットーは、遊びにも手を抜かない、と言われているが、勿論、本職の野球にも手を抜いた事はないのである。常なる向上心。人一倍の努力とファイトで、人のポジションも取ってやろうという、負けず嫌いというか、ダメモトと言うか、どうしてもやるんだという、止むに止まらない燃えるものがあると思う。その証拠に、以前に高校や大学で野球をやってきた人達が、我バミューダズに何人いるのか、そして、その人達が毎年、良い成績を残せているのか、という可否である。我がバミューダズは、メンバーのほとんどが、野球では素人と言って良い人達である。しかし、その人達が毎年、試合や合宿に参加し、やる気と努力で、徐々にではあるが、確実にうまくなって来たのである。それは、毎年の試合や各人の記録を見れば明らかである。

また、我がバミューダズは、試合に臨む態度も一貫している。すなわち、その試合に来た

人達は、必ず全員出場するのである。まさしく、全員野球なのである。たとえ、最少点数差で勝っていても、全員参加の原則により、人が入れ替わり、その替わった人の所へ打球が飛び、たまたま、その人がエラーした事により、試合の流れが変わり、試合に負けてしまった事もあった。しかし、バミューグズのメンバーは、そこで負けても悔いは残してはいけないのである。本当は、とても悔しい。しかし、試合に負けた事は、誰のせいでもないのである。いや、チーム全員のせいなのである。エラーをした人が、次の同じ場面でエラーをしない様に、練習を積んでいく事を考えようとする事に、草野球としての重要性を感じるのである。

「ああ、我が草野球バミューグズ」、これは、私の人生に、沢山の楽しみ、うれしさ、また、苦しみを与え、そして、人へのいたわりも教えてくれた、「バミューグズ」への私の心からの感謝の念を込めた言葉なのである。

佐久ホテルとバミューグズ

バミューグズが、毎年夏の合宿でお世話になっている佐久ホテルと、バミューグズとのそもその出会いは、私が大学時代所属していた、硬式野球のクラブチームである、パトリック・クラブが佐久ホテルに合宿していた為に、その関係で、バミューグズも合宿させてもらう様になったのである。(今もパトリック・クラブは、佐久ホテルで毎年合宿している。)

バミューグズの創立三年目頃、チームが、ユニホームを作り、年間試合数が15試合前後となってきた、チーム全体にまとまりが見えてきた。チーム首脳部は、チームがさらにまとまり、かつ、メンバーの技術も向上させたいと考えていた。そこで考えたのが、佐久での夏期合宿であった。佐久ホテルは、私

のなじみでもあり、グラウンドは必ず佐久ホテルが世話をしてくれる為、最初から安心であった。こうして、第一回目の合宿が、79年に、佐久の市営球場で行われたのである。夜は、得意の大宴会で盛り上がり、チームのメンバー同士の気心も知れる様になり、チームの結束力が向上した。さらなる成果としては、技術力の向上であり、普段の練習や試合では、練習できない事、つまり、走塁や挟殺プレー、さらに、連けいプレーのマスターである。この連けいプレーを身につけた事が、その後のバミューグズの試合を、有利に進ませる原動力となったのである。

なお、佐久ホテルのご主人を始め、奥様や従業員の方々には、いつも大変お世話になり、いつもお邪魔しても、我々を暖かく迎えていただき、また来年も来ようという気にさせてくださる。何よりもまして本当に有難い事だと思っている。佐久ホテルの皆様、今年90年も、またバミューグズはお邪魔しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

進化するイモ男

徳光 始

かれこれ早いもので、怪奇イモ男と呼ばれて十年が過ぎてしまった。「おねえちゃん、イモいらんね」事件で、改装前の佐久ホテルに泊っていた地元のバレー部女子中学生に、ヒヒンと笑われたのが昨晚の出来事のようなのだ。

軽井沢経団連セミナーハウスでの、赤いペイズリー模様のオープンシャツに白の綿パン、そのうえ調光のレイバンをかけた組員風の姿を思い出すと、ほおから火が吹き出しそうだ。

カラオケ病にも火がついた。長後「にんじん」通いが始まると、コートを忘れた吉祥寺

のスナックに、奥ちゃんとハッパとタラを呼び出し新年会。圧巻は通販で買ったニュー・ミュージックCD大全集で、CDラジカセと組み合わせてビンゴ・カラオケゲームを開発して、ひんしゅくをかった。

北野が呆然となった、ド派手三原色スキーウェアに、ライトグリーンのアトミックの板をつっかけた冬の軽井沢では、盛田会長夫妻に御挨拶し、記念写真まで撮っていただいたが、8ミリビデオに映った滑走する着ぶくれの雪グルマをホテルで見た時には、目を被ってしまった。

軽井沢テニスツアーを皮切りに、同時進行ドキュメント小説という新ジャンルを開拓した。テニスコートの脇で執筆した生原稿のコピーを五百円で売るといふ珍商売を始め、ツアーのある度に発行したら、北野の職場では廻し読みされて大爆笑だったそうだが、横田さんのシビアな誤字・脱字チェックを見せられ赤面した。

仕事してんのう？ と馬鹿にされた四人の中堅選手のトップを切って嫁さんをもらった。

その嫁さんを初めて、大井中央海浜公園のナイターに連れて行ったら、塩瀬監督が気を効かせてサードを守らせてくれた。ところがサードゴロのたんびに、ころりんころりと足がもつれて横転してしまい、監督からは罵声が、選手からは失笑を買った。以後、嫁さんはグラウンドに姿を見せていない。

ついに来たというか、夏物と冬物のズボンが、はけなくなってしまう平成元年の最終戦。江戸川球場で守備につこうと走り出したら蹴躓き、一回転して背中をしたたかに地面に叩きつけられた。大の字になって苦痛をこらえながら、初冬にしてはあたたかい青空をながめていると、涙でほやけたカルビー・ボ

テトチップスの白い雲が、ゆっくりと流れていた。

思い出の試合

永嶋 仁

いつだったか忘れてしまったが私にも輝いた試合がある。オーシャンリーグの対レンジャース戦である。妻と二人の子供を多摩川の鶴ノ木グラウンドにつれて来た時である。土手から子供の声援を受ける。相手はピッチャーとキャッチャーだけのチームである。(二人しかないわけではない。念のため) 偶然、4打席とも出塁できた。偶然、前に誰もいなかった。偶然、盗塁が出た。数えたら8個である。アクシデントは2塁へ盗塁した時にキャッチャーからの送球が私の後頭部にあたる。

7個目の盗塁を決めた二塁のベース上で足がもつれた。牽制球にもフラフラでベースに戻る。7個の記録を持っていた藤本助監督からの声援が飛ぶ。8個目達成！味方チームから暖かい拍手を受ける。三塁ベース上で足がもつれながらもこち良い疲労。帰りの車中で一人満足感に浸って運転していると「お父さんの頭にボールが当たった。当たった。」とひやかす。アクセルをふみ込む足がケイレン気味にふるえた。

野球人生の将来を考える。塩瀬監督は還暦野球を同じメンバーでと考えている。期待に添いたい。努力も続けたい。子供と一諸に荒川の河川敷を散歩していると様々なことに会ふ。グラウンドに目を移すと自分の野球人生の将来が見える様な気がする。大声を出す少年野球の監督になるのか、やさしく労るコーチになるのか。隣のグラウンドに目を移すと黙々とノックを続けるコーチがいる。ノックが

下手なのに取れないボールを出しておいて飛びつけとか、「何をやっているんだ!」と怒鳴るコーチもいる。立ち止まっている私に子供が向こうへ行こうと手を引っばる。次のグラウンドでは試合をやっている。審判がインフィールドフライを宣告している。マスクを外したその顔はボール・ストライクをコールする声とくらべて老いていた。スコアーを一球一球つけるうるさそうなコーチが檄をとばす。試合は……

子供が強く手を引く。「お父さんは野球ばかり見ているんだからー」現実に戻る。子供の手を引いて家に急ぐ。

意地をみせた中継プレー

望月 昭秀

最終回2死ランナーなし、1点リードの我がチームのマウンドに私はいた。ここで迎えたバッターは打率8割を超える超スラッガーであった。3球目の内角よりストレートを彼はライト線に大ファウルした。この打球を目で追いながら私はマウンドにグラブをたたきつけたのであった。

これは私が学生時代に入っていたソフトボールサークルでの部内試合の話である。ソフトボールと言うと野球の子供版、女性版のように思われがちで、大の男がやっていると笑われることも何度かあった。確かにダイヤモンドも小さく、ボールもでかい。思いきりバットを振っても大してボールは飛んでいかない。しかし、野球と比べてプレーが簡単か、と言うと私はそう思わない。

我々のサークルは各人それなりのレベルでソフトボールに真剣に取り組み、また楽しんだ。ボールを握ったこともなかった女性から

バリバリの高校野球出身者まで同じ練習を行ない同じ試合に出場する。レベルは違おうともプレーにかける情熱は同じである。私もその中の一人であった。

バッターは早大野球部に入っていたこともある私とは桁外れの選手、ライトを守るのははっきり言ってただ立っているだけの女性であった。そこまでして勝ちたいのか、と一瞬間に血が昇った。どうせ打れるのならセンターかレフトの頭上を抜かれよう、それで同点だ。4球目のど真中ストレートが予想通りセンターの頭を越えた。私は何も考えずキャッチャーのバックアップに向った。

ランナーはホームランを確信したかの様に3塁ベースを回ろうとしていた。とその時、センターからショートにボールが帰ってくるのが見えた。私はキャッチャーと目を合せるが早いか、ホームベース前で大きく手を上げた。「ここだ!」ショートからの矢の様な返球がワンバウンドして左に逸れた。その返球を私はひっしでつかみ取り、ヘッドスライディングをするかの様にホームベース前にグラブを差し出した。その時、ランナーの足が私のグラブに触れた。

「アウト!」我がチームの勝利をつげるコールと同時に我々は抱き合う様に喜び、勝利を称え合った。

野球だけでなくどんなスポーツでも、その人なりのレベルで真剣に取り組むことによりどんな人間でも、その人なりの喜び、悲しみ、そして感動を味わうことができると思います。私は野球が好きでバミューダズに入りました。入会してまだ一年も達ちませんが、バミューダズならあの感動を再び味わえると信じています。

束の間の打撃開眼

内山 秀敏

私は今でも、野球よりテニスの方が上手だ。特にベースラインでの打ち合いなら、かなり自信がある。それでも時々打ち損じのフレーム・ショットが出ることがある。

そのような具合だから、丸いボールを丸いバットで打つ野球のバッティングは、やはりむずかしい。年に何本かヒットが出るのは、野球の神様のおかげと思っている。

この、不動の1割打者の私に、ある日野球の神様がヒントをくれた。それは、89年6月の対JETRO戦のことであった。

伝統の定期戦はこの日も接戦。1対3の2点差で迎えた4回裏。一死二塁で打席に立った。タイミングを合わせて振り出したバットは、何の力みもなくボールをミート。レフト前タイムリーで2対3。1点差となった。

バットを振るというよりはボールに当てるという感じ。力みがなく、インパクトの瞬間に力が集中した感覚が、身体に残った。

チェンジになって今度は、外野の守備位置から相手バッターを観察してみた。すると、どうだろう。力いっぱいバットを振り回した時の打球は、殆んどがボテボテの内野ゴロ。大振りせず、タイミングを合わせてミートした打球だけが、外野まで飛んで来るではないか。これだ！ 外野の守備にも使える。私は一挙に悟りを開いた。

そして次の打席。2対3のまま6回裏。今度は一死二、三塁である。ここで打てば逆転、本日のヒーローまちがいなし。さきほど開いたばかりの悟りを胸に、私は静かにバッターボックスに入った。

投手のモーションにタイミングを合わせて

左足を上げる。来た。絶好球。次の瞬間、頭の中は「ヒーロー」の文字で埋まり、私は力いっぱいバットを振った。

打球は理論どおり、ボテボテのゴロとなり投手の前に転がった。

悟りを開くのはむずかしく、実践はさらにむずかしい。

田舎の餓鬼大将

塩瀬 正明

田舎の餓鬼大将が「する」野球を初めて体験したのは、菩提寺の境内だった。その寺は大福光寺と呼ばれており、足利尊氏が天下盗りに願をかけた由緒ある寺だった。鴨長明の『方丈記』写本を蔵していることと、本堂と多宝塔が重要文化財に指定されていることで、丹波では有名な寺だった。

野球のバットは、各自が近くの竹やぶから切ってきた孟宗竹だった。節目の所で切って子供の体格に応じて長さが調整されていた。餓鬼大将は、当時、小学校の3、4年生だったが、小学6年生並の体格だったので太目の竹バットを愛用していた。

ボールは軟式テニスのゴムボールだった。それをソフトボールと同じく、下手投げで投げた。

ベースは三塁しかなく、三塁へ進んだらホームに戻るだけだった。ライトは水田になっており、センターから右側へ打った時は、アウトを宣告された。それは、水田に入るとボールを取りに行くため、靴を脱いで裸足にならなければならない、試合が中断されることへのペナルティだった。寺の本堂の屋根へ打つとホームランで、屋根の軒下から回り廊下の上に打つと二塁打と決められていた。

それで各打者は、レフトヘフライを打つことに専心した。非力な少年は、ショート付近にある松の根っこにボールを当ててイレギュラー・バウンドによる内野安打を狙って、ブッシュ・バントを試みた。

このように、狭い長方形の境内をうまく活用するため、用具とルールがうまく工夫されていた。いつも薄暗くなってボールが見えなくなるまで少年達は「する」野球を楽しんだ。

小学校の5、6年になって、隣の地区の小学校とのソフトボールの対抗戦に活躍したのも境内で育ったプレーヤーたちだった。

当時——昭和30年代前半——は未だテレビが各家庭に普及しておらず、プロ野球はラジオで「聴く」か翌朝の新聞のスポーツ欄で「読む」ものだった。人気スターは何といっても巨人軍の川上哲治一塁手で、勿論4番を打っていた。

餓鬼大將は、親にせがんで川上の背番号16の描かれた下敷きを買って貰った。水彩画やスケッチをする時に画用紙を支える少し大きめの下敷きで、ポータブル・キャンパスの働きをするものだった。田舎の少年でプロ野球の人気スターを形どった品物を持っている者はほとんどおらず、餓鬼大將は大いなる誇りを持った。

小学校が夏、冬、春の長期休暇になると、少年は母親の実家である祖父母の家へ一人で遊びに行った。

祖父について農作業の手伝いをする、褒美に将棋を教えてもらえた。祖母の手伝いをする、と玉子焼を作ってくれたり、カバヤキャラメルやラムネを買うこづかい銭を貰えた。

ある年の夏休みは40日間のほとんどを祖父母の家で過ごした。そうこうするうちに、その家の近くの小学生たちの遊び仲間に入れて

もらえるようになった。

小学校の4年の夏休みだったろうか。祖母の家の近くにあるグラウンドで、その町内の地区対抗の軟式野球大会が開催された。その時初めて、うなるボールを見てびっくりした。なるほどバックネットやキャッチャー面が必要な訳が判かった。眼前でプレーされる野球は迫力があつた。少年は「見る」野球に圧倒された。境内や小学校の体育でやる野球と大違いだった。何といっても、ラジオで「聴く」プロ野球や高校野球と同じルールであることに痛く感激した。

中学校に進むと、ためらわずに野球部に入った。1年生は先輩の練習を遠巻に見守り、ボール拾いとグラウンド整備が主な役割だった。練習中は、中腰になって「ウェー、ウォー」という意味不明のかけ声を絶えまなく発するよう強制された。気合を入れるための発声だった。新入部員は下働きをするものと割り切っていた。それでも週に何回か先輩ピッチャーがフリーに打たしてくれることを楽しみにしていた。

家に帰っても上達のために練習を続けた。庭の岩に向かって軟式ボールを投げつけ、コントロールを良くしようとした。その岩のある部分だけが、ボールの当たった跡で白っぽくなった。

しかし少年は夏休みになる前に野球部を辞めた。練習が辛かった訳ではなかった。先輩部員の中に「吉田いいちろう」という「不良」がいたからだ。

彼は医者の子息だった。彼の母親が、その中学校の校門から、わずか50m足らずの所で「吉田医院」を開業していた。父親は患者の家を訪ねてゆく車の運転手を勤めていた。

餓鬼大將が生後3ヶ月で熱病に犯された時、

父親は、その女医からストレプトマイシンを譲り受け、毎日息子に注射を打って一命を助けた。この様に田舎の連中は皆、吉田医院には病気の治療で世話になっていた。

田舎で医者ときたら「大金持」の代名詞で、その「不良」は欲しい物は何でも買って貰っていた。また、やりたいことは何でも出来た。表立って反抗すると、その「不良」と取巻連中から報復を受けた。

野球の練習でも、自分の氣にくわぬことがあると回りの者に八つ当たりする。理不尽なことをやっても、監督も周囲のナインも何の注意もしない。嵐が過ぎ去るのをひたすら待っているだけだ。

そんなことで、その「不良」と一緒に野球の練習をするのが嫌になって退部した。その後、10年以上経って「バミューダズ」というチーム創設に参加するまで、田舎の餓鬼大将は野球のボールを手にしなかった。

中学校を卒業して20年も経った頃だったろうか。餓鬼大将が「バミューダズ」の初代監督に就任した頃だった。久しぶりに田舎に戻って当時の遊び仲間と昔話に花を咲かせた。ワル（「不良」）の吉田少年の思い出に話題が及んだところ、旧友が「あいつは20歳ちょっとで死んだよ。知らなかったのか。」と教えてくれた。それを聞いた餓鬼大将は急に押し黙ってしまった。

「ワルの吉田」の死因や吉田医院がどうなったのか、餓鬼大将は知りたい欲求を今日に至るまで押し殺してきている。

(1990年2月)

デビュー戦

外山 勝望

7月のとある金曜日の午後だったと思う。その日もいつもと変わらない平和で平凡な1日が終わろうとしていた。芝浦に配属されて間もない私は、これといって仕事もなく、「帰りの電車混んでるかな？外出るの嫌だな。何で夏は暑いんだろう？寒かったら冬だよ、ハハハッ。それにしても暑い暑い。」などと他愛もない事を考えながら残りの数10分間を過ごそうとしていた時、同じ職場でお世話になっているS先輩から、「今夜、近くで試合があるんだけど見に来ない？」と呼びかけられた。(以前、自分が野球に興味があることをS先輩にほのめかしていた)「別に予定もないし、面白そうだから行ってもいいな。球拾いぐらいできるかな?…」と思い、S先輩に連れられて天王州の野球場へ躊躇もなく行ってしまった。まさかその時、試合のメンバーが足りなくて、自分がスーツのまま人のグローブと運動靴で、ライトを守るなんてことは夢にも思っていなかった。

結果的に、これが私のデビュー戦となってしまったわけで、成績は、打撃2-0（ヒットが出たら衝撃的だったんだけど）、守備の方は、絶対飛んでくるんじゃないゾと祈っていたのが効を奏したのか、飛んできたのは2度だけで2度とも一応無難に処理できた。

何とも情けないデビュー戦ではあったけど草野球の醍醐味を十分味わえた一日であった。やっぱり草野球はこうでなくっちゃ。

まだまだ基本ができていない私ですが、皆さん、どうか今後の御指導、御鞭撻の程を宜しくお願い致します。体力の続く限り私はバミューダズのために全力を尽くします。

バミューダズに入団して

山本 哲也

去年の秋にバミューダズに入団させていだいたわけですが、入団してバミューダズの歴史や皆さんの熱心さを見る度に正直言って驚きました。入団の動機が社会人になって運動不足になっていたのも、気の向く時だけ試合に行って適度な運動をしたいという軽薄なものだっただけに、驚いたのも無理がありません。それでという訳ではありませんが去年は2試合に出ただけですが、今年はちょっと考えを改めました。バミューダズの試合というのは土曜に多い訳ですから、例えば、土曜の朝に試合をしても、その午後と日曜はフリーな訳で、スケジュールさえうまく組めば大変充実した週末になります。今年は、これを活かしてより充実したウィークエンドにしたいと思います。

書き忘れていましたが、バミューダズに入団して驚いたことの最たるものは、塩瀬監督の変貌ぶりです。グラウンドには、会社でのイメージからはとても想像できない塩瀬監督兼選手の姿があったのです。

いよいよ今年から本格的にバミューダズの一員としてやっていく訳ですが、究極の草野球と究極のボディ(?)を目指してやっていきたいと思います。

今、五反田が燃えている

吉田 洋

私とバミューダズの出会いは、同じ寮にいた同期の奥(現在は西ドイツに赴任中)から洗濯をしている時に、「野球がうまくなり、芸達者な人が多い活発なチームがある」と聞か

れ、1983年秋に入部したのが始まりである。以来、早いもので実質7年目を迎えようとしている。入部勧誘にあたって、奥から言われた「野球がうまくなる」というのは、本人の努力にもよるが、芸達者な人が多いというのは、本当であった。バミューダズは過去の試合結果を振り返ればわかる通り、ソニー圏ではオーシャン・リーグ優勝等数々の好成績を収めており、Aクラスの実力を誇っている。今後は、外部との試合を通じて、ソニーのバミューダズから、品川区、そして世界のバミューダズへと、さらに飛躍していくことが必要であると思われる。

バミューダズに所属していてよかったと思うのは、野球の試合、芸達者な宴会以外に北京留学時に送付して頂いたバミューダズタイムズである。私は、入社以来、「チンさん」というニックネームで呼ばれている。(同期の人間に言わせると中国人に似ているからと言われたが、後にこのことは実証されてしまった)そのせいもあり、1985年に6ヶ月程、北京での語学留学を経験している。当時は、何の情報娯楽もない、勉強一筋の生活であった。日本からの情報としては、2・3日遅れの日経、朝日新聞、夜に耳を傾けて必死に聞くRKB毎日ラジオ位しかなかった。その時、週刊誌にも劣るとは思えない程の情報が掲載された「バミューダズ・タイムズ」は、絶好の娯楽であった。特に、「今、五反田が燃えている」と題された新聞などは今でも覚えている。

最近、私も含め、バミューダズ・タイムズは停滞気味であるが、海外からも愛読される新聞を目指し、今後も一層の充実を願う次第である。

バミューダズよ永遠に…

(ソニー・一宮勤務) 竹内 敏博

私は89年10月に、転勤で8年半住みなれた東京を離れ、愛知県一宮市に住む事になりました。そして、同時に87年より約2年半お世話になったバミューダズともお別れする事になりました。8年半の花の大東京での暮らしには、様々な思い出深き事があり、20代の大半を東京に身をおいた事には、自分の成長において意義深いものがあると思っています。その成長のひとつの枝葉として、私の心の中に脈々とバミューダズ魂が息づいております。それは、「やるなら徹底的にやれ」という事です。ひとつの趣味としての野球だけではなく、毎試合ごとに内容様々の新聞は出すわ、動機不純な？テニスツアーはするは、強引なまでの勧誘？はするは、中味盛りだくさん？の合宿までするは……そこまでする！で人それぞれの個性が見事なまでにうごめきながら調和してしまうという、すばらしい人間草野球集団をバミューダズは形成していると思います。この遊びにかけける徹底した姿には、形は違う趣味においても、また、人生のどんな時においても、きつといかさされ、そして、心に燃えるものをひき出してくれると思います。

バミューダズの戦歴300試合は、きつと単に通過点にすぎず、さらには1,000試合にまで、がんばって、すばらしき仲間の野球集団として、永遠に燃え続けるものと期待しています。

私、一宮にて決して野球を忘れる事なく、地元ドラゴンズを徹底して応援し、バミューダズ魂を燃やしつづけたと思います。

ドラゴンズはよー、今年こそ絶対に優勝だぎゃー。(ハヤシもあるでよー。)

野 球

(西独勤務) 奥 昭敏

小学校1・2年の頃、父がクリスマス・プレゼントにグローブとボールを買ってくれた。私を買ってくれるようにせがんだのか、父がプレゼントにグローブを選んだのか、もう記憶は定かではないが、この日から、野球とのつき合いは始まったと思う。

そのうちスポーツ好きの父はキャッチャーミットを買って来て、仕事が早く終わった日など夕方に、キャッチ・ボールの相手をしてくれるようになった。

ある日、父がボールを取り損ねて、左手親指のつけ根をものすごく大きくはらした。翌日病院に行って肉離れと診断されたのであるが、あの日「こげん、手がはれてしまうたばい」と私に言いながら照れ笑いをしていた父の顔が、今でも記憶に残っている。子供の前ではしかめっ面も出来なかったのだろう。

ある朝、校庭で今まで見た事のない奇妙な足跡をいっぱい見た。運動靴と裸足の足跡しか知らない私にとって「ハ」の字型にいっぱいいつているそれは、宇宙人の足跡そのものであった。

しばらくその事は忘れていたのであるが、ある日放課後に校庭で遊んでいると、消防団の人達がトラックで来て、そのうち野球の練習をやり始めた。その時初めて、宇宙人の足跡はこの人達がつけたのだとわかった。バットを軽々と振り回して、目にも止まらぬ速い球を投げる消防団の人達は、私にとってやっぱり宇宙人としか思えなかった。

中学生になって野球部に入った。練習の締めくくりに円陣を組んで「志摩中ファイト、オー」と言って終るのであるが、1年生の時

ある日3年生が円陣で「志摩中、タンボン・オー、タンボン・オー」と連呼するよう命令した。何も知らない1年生は、ただひたすら3年生の機嫌をそこなわないよう、大きな声を張り上げた。

こんなチームだったから、成績は3年間、たいしたことはなかった。

高校でも野球を続けた。

本格的に野球に打ち込み始めたのは最上級生となった2年の夏からである。それから3年の夏までは、ひたすら野球だけをやっていったような気がする。

3年の夏の予選の3回戦で、当時甲子園で名の通った柳川商業とあたった。3対0で負けたまま、9回2死で私の番となった。私の当りは三遊間へ飛んで行き、一生懸命一塁にかけ込んだけれど、送球の方がわずかに早かった。その時、高校生活は終わった。

1年の時から一生懸命練習しとけばよかったと、ちょっと悔いは残ったけれどこの1年間は最高に充実していた。

社会人になって無性に野球がやりたくなくて、バミューダズに入った。野球の話で夜通し酒が飲めるこのチームがすぐ好きになった。

想えば入社以来1年のブランクを除いて、5年間野球中心の生活だった。その日の試合でいい結果が出ないと、来週の試合がとても待ち遠しかった。試合前の日は、たとえ花金だろうと酒をひかえた。

野球とはかけ離れた西独にいて、30年の人生を振り返ると、こんなに長い間野球とつき合っていたのかと、改めて驚いてしまう。

今、こんなに大好きな野球以上におもしろいものを、少しずつ見つけようとしている。

90年代こそバミューダズ

(米国勤務)大橋 洋行

「私が一番感動した試合、プレー」はさておいて、まず約5年半、USAに赴任して外から見たJAPANについて、私の印象を述べたいと思います。

年末年始に日本にいて感じたのは、自分もそうであったように、異国文化やライフ・スタイルの「カタログ」を勉強して来たことです。「世界ハウ・マッチ」とか、Mono マガジン、バンサンカン、Goods Press 等の雑誌とか、海外旅行ブームとか、80年代の歴史を感じます。

たまたま日本では、家を買えないほど高くなってしまったので、「衣食住」の「住」にかけるべきマネーが余っていて、「衣」や「食」に使ったり、より高次のニーズの、旅行、スポーツ、教育等に使ったりできたのだと思います。

この意味で、「住」に欠ける不安定なライフスタイルが、ある文化をつくり、チョット背のびしても、トレンドたるものが大切になって来るのです。個人的にはこんな文化が好きですし、あってもいいと思います。

ただ90年代は、地球上のいろいろなライフスタイルや文化の「カタログ」と衣食住から、高次ニーズの旅行、スポーツ、教育等の中から、本当の自分のライフ・スタイルを選択する時だと考えます。

私にとって、いとをかしきライフ・スタイルの90年代に、なくてはならないものの一つとして、バミューダズがあります。わがままが許し合える許容範囲が広い人間関係が、そこにはあり、また世田谷、成城に住む女性であろうと、会長、社長であろうとアタックす

る、偏差値に縛られた世代意識のない、人間の本来もつべき「自然」をもったチームです。

その中での試合の一つ一つが、台本のない芝居、取説のないマイクロ・コンピューター、クレジット・ラインのないクレジット・カードで、人生感動ドラマです。

強いて言えば、1989年の日本シリーズ第7戦と、佐久宿での黒沢兄弟チームとの試合が、一番感動したものでした。

やはり、野球→温泉→ビールとごちそう→Party、最高です。400試合達成までに帰任してゲームに参加できるために、トレーニングをつみたく、考えております。出張等、Los Angelesにお寄りの際は是非、声をかけて下さるよう、宜しくお願い致します。

(714-229-4349)

私の好プレー、珍プレー

藤本 和彦

私も、「バミューダズ」に入団して、10年目を迎えました。その間には、いろいろな事があり、「私の一番感動した試合、プレー」と言われても、あれも、これとも思い出されて頭の中が混乱してしまいました。

私自身、最も印象に残っているのは、1981年の、1イニング2本塁打です。そして、この記録は、その時の1イニング5打点と言う記録と共に、私のバミューダズにおいて唯一の記録です。この時は、一番打者として1回表に、あの有名？な麻布Gで、多摩川へ打ち込んだホームラン、これで勢いがついたのかバ軍は打者一順の猛攻、次に打席が廻って来たのは同じ回の二死満塁の時でした。ここでまた、こんどは右中間を転々と転がるランニングホームラン……と言う訳です。この頃が私

の全盛でした。肩も痛くなかったし……

その後も、話題に上るプレーは、色々ありました。幻のサヨナラ本塁打やボールキックプレーなどです。しかし、あの2本塁打に較べると、私の中ではそれ程大きな印象はありません。そして今だにあの夢を追って、バットを振りまわしています。いけないとは思いつつながら……

と、まとまりのない形で書いてきましたがこれからも、まだまだ現役で（あくまでもフロントではなく）頑張るつもりです。これからも、よろしくお願いします。

諸君、これがバミューダズだ！

渋谷 和明

300試合達成記念号の出版にあたり、「思い出に残った試合」というテーマで書いてほしいと内山編集長に頼まれましたが、入団以来、毎年のように年間最多試合出場数争いに顔を出す私にとって、「思い出に残った試合」を1つだけ選んで書くのは、あの居山選手会長の講談、藤本助監督の歌のおもしろさの意味をわかってくれる昭和40年代生まれの若い女性を探すようなものである。

そこで「思い出に残った試合」については他の選手に任せて、私はこの300試合達成を記念して、また新たに入団した或いは入団しようと思っている若い選手及びファンクラブの為に、ここにソニーの入社試験よりも難しいとされる「1990年度バミューダズ300試合達成記念クイズ——バミューダズの歴史」の一部を御紹介しましょう。さあ、あなたは一体どれだけバミューダズの歴史、本当の正体を知っているか？ そして、あなたは一体どれだけこの恐怖の草野球軍団のバミューダズに係

わっているのか？ では、問題です。

[どんな問題？、イヤ、どんなもんだい！]

下記のA群に上げたバミューグズ選手にあてはまると思われる珍事件、怪事件、イメージ、実績等をB群の中から選んで下記の回答欄に記入しなさい。

例えば、1：建部選手（a）

尚、A群の選手名は200試合以降の主な参加選手に限らせてもらいます。

[A群] 回答欄 回答欄

- | | |
|--------------|----------------|
| 1：建部選手（ ） | 16：北野(雅)選手（ ） |
| 2：宮嶋選手（ ） | 17：渋谷選手（ ） |
| 3：岡本選手（ ） | 18：榎並選手（ ） |
| 4：北野(博)選手（ ） | 19：内山選手（ ） |
| 5：竹内選手（ ） | 20：吉田選手（ ） |
| 6：松本選手（ ） | 21：三浦選手（ ） |
| 7：金子(克)選手（ ） | 22：望月選手（ ） |
| 8：奥選手（ ） | 23：横田マネージャー（ ） |
| 9：江口選手（ ） | 24：徳光選手（ ） |
| 10：藤本選手（ ） | 25：鈴木マネージャー（ ） |
| 11：鎌田選手（ ） | 26：鈴木選手（ ） |
| 12：吉武選手（ ） | 27：金子(治)選手（ ） |
| 13：韓選手（ ） | 28：滝川選手（ ） |
| 14：永嶋選手（ ） | 29：居山選手（ ） |
| 15：飯田選手（ ） | 30：塩瀬選手（ ） |

[B群]

- a：「ねえちゃん！ イモいらんけー、多重人格、IBM」
- b：「左投げ右打ち、七色の変化球、レコーズ兼務」
- c：「コラー！ 事件、バカヤロー！ 事件でおなじみのミスター・ブー」
- d：「ホーム・一塁ベース間を泳いで横断、突

然乱投」

- e：「青い稲妻ではなく青い居無妻ン、名ショット」
- f：「キンタの大冒険でおなじみのバーコード・歌手」
- g：「ダイヤモンドグラブ賞最多獲得者、子連れ外野手」
- h：「尼寺へ行け！、赤穂浪士、ピーターパン等の名作講談師」
- i：「東大の赤門に新車で激突、次期セカンドか」
- j：「ピンク街の4番打者、恐怖のライト打ちの名選手」
- k：「サード、ラグビー、まもなく脱四天王、8マン」
- l：「口から生まれた変な奴、ダイビング・キャッチャー」
- m：「サウスボー、エース、元オランダ・バミューグズ」
- n：「ラグビーシューズ、元祖ピョコタン走法」
- o：「中国人女性の達人、意外な打力」
- p：「右のエース、黄金バット、三冠王」
- q：「リリーフエース、4番打者、やっとな脱四天王」
- r：「キャッチャー、大学生、弟、阪神タイガース」
- s：「なんてったって、イワン・レンドルの元祖、元宴会部長」
- t：「右投げ左打ち、好打者、ソニートレーディング」
- u：「サングラス、長髪」
- v：「広島カープ、幻の名選手、フロント入り部長」
- w：「百面相の達人、ビックマウス」
- x：「幻の名キャッチャー、NEC」
- y：「バミューグズ・ツーリスト社韓国営業所、

元祖企画部長」

z : 「次期ショートか、ニューリーダー候補の
1人」

A : 「宴会部長、ヒョーキンヤロー」

B : 「豪打、豪速球、豪投、レコーズ兼務」

C : 「顔良し、スタイル良し、器量良し、サッ
カーウーマン」

D : 「顔良し、スタイル良し、器量良し」

尚、正解者にはもれなく下記のような素晴らしい特典を御用意致しました。(正解率によって多少特典が異なりますので、御了承下さい。)

正解率

100% : バミューダズ名球会シード権及び
全試合出場シード権

80%以上 : バミューダズ年間全試合及び全宴会
出場シード権

50%以上 : バミューダズ年間全宴会出場シード
権

30%以上 : 居山選手会長の訓示、題名「講談
のいろはにほへと」

10%以上 : 藤本助監督の訓示、題名「球団歌
の歌詞の意味」

0% : 塩瀬監督の長い訓示、題名「バ
ミューダズ魂とは」

〔正解〕

- 1 : 建部選手 (m) 16 : 北野(雅)選手 (r)
2 : 宮嶋選手 (p) 17 : 渋谷選手 (q)
3 : 岡本選手 (i) 18 : 榎並選手 (x)
4 : 北野(博)選手 (e) 19 : 内山選手 (n)
5 : 竹内選手 (d) 20 : 吉田選手 (o)
6 : 松本選手 (v) 21 : 三浦選手 (B)
7 : 金子(克)選手 (s) 22 : 望月選手 (z)
8 : 奥選手 (k) 23 : 横田マネージャー (C)
9 : 江口選手 (w) 24 : 徳光選手 (a)
10 : 藤本選手 (f) 25 : 鈴木マネージャー (D)
11 : 鍵田選手 (l) 26 : 鈴木選手 (j)
12 : 吉武選手 (A) 27 : 金子(治)選手 (b)
13 : 韓選手 (y) 28 : 滝川選手 (u)
14 : 永嶋選手 (g) 29 : 居山選手 (h)
15 : 飯田選手 (t) 30 : 塩瀬選手 (c)

このクイズは300試合達成を記念するのに相応しい難問ですね。次の400試合達成記念クイズは一体どんな難問が出題されるだろうか、あなたはまた90年代のバミューダズから目が放せない。

第2部 私のバミューダズ

サッカー狂が魅入られた バミューダズ野球

87～88マネージャー 横田 明佳

「サッカーのマネージャーならやります。」
監督にこんなことを言った私が、バミューダズ
のマネージャーを2年間も務めたのは、な
ぜでしょう？

バミューダズの野球を最初に見たのは、マ
ネージャーになって早々に行われた木更津で
の春合宿。(雪が降ってたいへんでしたネ) 思
っていたよりハードで、本格的で、マジ!!で
“これが草野球?”と驚き、私もハンパな気持
ちではいられないと思いました。

毎週土曜日の早起きもなんのその!?(とい
っても、1年契約だったため2年目は不真面目)
サッカー狂のこの私が、試合を見るごとにバ
ミューダズ野球に魅力を感じるようになった
のです。それに、試合で見るメンバーは、ふだ
んよりかっこよくイキイキしているのです。

1年目はほとんどの試合を観戦し、スコア
ーもひと通りつけられるようになりました。
また、軽井沢のテニスツアーでは金子(克)選
手と2人で寸劇(漫才?)などやってしまい、
今までと違う自分を発見したりもしました。

こんな好奇心旺盛の私にとって、ピッタリ
のチームだったのでしょうか。しかし、「遊びに
手を抜かない」はずのチームが最近、野球以
外のイベントへのパワーが薄れてきているこ
とが残念です。

これからも、もっともっと魅力のあるチー
ムになってマネージャーが長続きするよう、
お祈りしています。

思い出のワンシーン

89～90マネージャー 鈴木 恵子

あれは去る88年11月の良く晴れた果てしな
く寒い日、紅葉のきれいなグラウンドで、バミ
ューダズの練習試合を見たのが始まりでした。

球団誌の発行にあたり、思い出すこと数々
あります。バミューダズ戦士の私の中のワン
シーンをご紹介しましょう。

内山さん……89年の春合宿のとき、不運
にも雨にたたられ食事処へ避難した一行のこ
とを知らず、遅れてグラウンドに到着。誰もい
ないグラウンドで雨の中、一人黙々と走る姿
には、心動かされるものがありました。

因に、この合宿では一回も素振りやせず、
ただ宴会と、名物の釜めしとおみそ汁のため
に、はるばる伊豆までかけつけたのでした。

藤本さん……とにかく若い! 元気!
この二言で藤本さんのすべてを表現できるの
では? なぜか名セカンドとしてグラウンド
を力いっぱい走りまわる姿よりも、一輪車で
before game or after game or anytime コキ
コキとグラウンドを乗りまわしている姿が目
に浮んでしまいます。

そして横田マネージャー……いろいろと
口では言いつつも、バミューダズを愛してや
まない人。横田さんの優しさとバミューダズ
にかける情熱は、だれよりバミューダズの、
一人一人が一番良く知っているのではないか
しら。

多くの思い出にありがとう。と、そして、
これからに大きな期待を。

バミューダズの魅力とは

和地 葉子

300試合を達成されたとのこと、本当におめでとうございます。

お恥かしい話ですが私は今時めずらしい、野球音痴です。大学時代はサッカーに夢中でした。今はラグビーのマネージャーをやっております。そんな私が皆さんと知りあったのは、87年夏の軽井沢テニスツアーでした。

その後、軽い気持ちで合宿に参加し練習風景を見てまず感じた事は、「ユニフォームを着ると皆かっこうよくみえるな」と「藤本さんのヤジはおもしろい」でした。でも試合が始まれば真剣そのものなんですよ。スポーツを楽しみ、かつ強くなるのって簡単そうで難しいと思います。そして、だからこそバランスのとれたチーム、すなわちバミューダズは魅力的なのだと思います(ヨイショ!)

強いバミューダズ、やさしくて楽しい選手の皆さん、力いっぱい応援しています。これからも頑張ってください。

野球大好き人間集団の魅力

居山 京子

バミューダズという野球チームを知って、もうすぐ4年になる。テニスツアーからだんだん慣らされ、今ではたまに試合へ付いていき、みんなの元気な姿を見るのが楽しみだ。若きも、老いも、野球への情熱は変わらず、ユニホームを着てグラウンドへ出れば、そこには力一杯の投球と打撃と走塁と日に焼けた男の顔がある。その中に好男子じゃないけど講師の我が夫もいる。彼は試合の前になると子供のようなおめめをして「土曜日、野球が

あるんだけど」とお伺いをたててくる。ダメである訳ないのに欠かさぬこの律義さ、彼のバミューダズをずっと大事にしていきたいという気持ちからなのであろう。カッコイイ男の世界がそこにあって、野球大好き人間、且つおかしな人達の集団…、これが私に映るバミューダズの姿である。私はルールをろくに知らないが、みんなの球を打ち込むあの目、瞬時の判断、またニヤッとこぼれる白い歯なんかが忘れられなくて、これからもバミューダズを応援させて頂きたい。300試合達成、おめでとうございました。

お祝の言葉

佐藤 みかさ

バミューダズとの出会いは春の多摩川土手でした。それから3年。泥だらけになるのを楽しんでいる事。まじめにプレイする事。優勝の場面がうれしかった事。マネージャーの涙がきれいだった事(歴代マネージャーの方は大変です)合宿で皆さんのもう一面をのぞいた事。いろんな事に魅かれて、また、フェンスの向こうにいつものユニフォームを見つけに出かけます。300試合達成本当におめでとうございます。「続ける」ことが「財産」であると教えて頂きました。ベンチ内も、思うように試合が進まない時、「何やってんのヨそこ!」とブツブツ。地味な応援をこれからも続けて行きたいと思います。

今後も記録をどんどん伸ばして下さいと思いますが、ファン一同が子連れで伺うようになって今まで通り暖かく未永く迎えてやって下さいませ。

ご活躍をお祈りします。

第3部 祝 詞

バミューダズ・チームを祝して

ジェットロ野球部主将 池下 譲治

栄えある300試合達成おめでとうございます。貴チームとはもうかれこれ10年のおつきあいになろうかと思います。その間、数々の熱戦を繰り広げてまいりました。最近では、昨年6月19日、3対2で貴チームに辛勝した試合が印象に残っています。勝ったとはいえ貴チームの猛打の前にピンチの連続だったからです。

ジェットロ野球部にとって貴チームは、まさに好敵手であり、対戦成績はそのままわがチームの好不調のバロメーターになっています。これも貴チームの戦力が常に一定水準以上にあるからこそで、転勤がつきものの我々サラリーマン・チームの中にあってはまさに驚異的。監督をはじめとする皆さんの不斷の努力と練習の賜物と改めて敬意を表する次第です。

閑話休題。貴チームとの対戦で、勝ち越していた82-83年のジェットロ野球部は、港区軟式野球連盟Aリーグにてベスト8が2回と絶好調でした。ところが、零敗し続けた85-87年の3年間は、同AリーグからCリーグへの転落の歴史でもあったのです。一方、4年振りの勝利だった88年と続く89年は、港区リーグでベスト4が2回、ベスト8が1回でリーグの昇格も果たし快進撃が続いています。

こうした意味からも貴チームとの対戦は大変楽しみにしているところです。これまでの戦績は記録に間違いがなければ7勝7敗と全くの五分。さて、90年代はどうなることでし

よう。

良きライバルとして、これからもお互いに頑張りましょう。

貴チームにおかれては、次なる目標の400試合達成を目指して邁進されんことを心より期待いたしましてお祝いのメッセージに代えさせていただきます。

フレー、フレー、バミューダズ!!

1990年3月9日

祝バミューダズ300試合達成

OB 加藤 千武

先日、思いがけずも建部君からの、バミューダズ300試合達成の報に接し、部創立期に参加させていただいた者として、心からお慶び申し上げます。

私自身、1978年の納会に於いて、思ってもいなかった“技能賞”を頂いた頃を境に、足が遠のいたままでありますので、このような栄光ある場に執筆依頼を頂き、いささか荷が重く感じている次第ですが、諸兄のご好意に甘え、今回の300試合達成に至ったルーツにつき感想を述べさせて頂き祝辞にかえさせていただきます。

創立時からクラブチーム

我々のように企業に帰属している身分にとっては、たとえ業務を離れた同好会であっても、企業の組織に依存しがちであります。そうした場合の業務上の直接の影響は論外としても、何等かの無形の影響は回避しえず、結果として短命に終わる例は枚挙に暇がないでし

よう。

それに対して我がバミューグズは、その創立の時から、組織を越え各部門から馳せ参じた同好の士によりごく自然に組織された、理想的なクラブチームであって、これが今日を成した理由の第一番目であったのではないのでしょうか。

皆、野球を続けたかった！

創立当時のメンバーで、入社直前迄組織的に野球を経験してきた方は、私の記憶では建部君外数名ではなかったかと思う。

所で、すでに御承知の通り草野球分野に於いては球場難であることは当時からで、当然、試合で練習となる。その結果は、前記経験者を除けばその度々に未体験の痛みを味合う事になったものである。例えば私自身の失敗談を申せば、ライナー飛球があればほど跳ねるとは知らず後逸し、長打とした苦い経験がある。このようなバミューグズがなぜ、その後時いくばくを経ずして、当社内の諸先輩チーム等を打倒するように、信じ難い急成長を遂げたのであろうか？

これには、前記の経験者諸氏によるご指導の成果も多大であったかと記憶しているが、それに加え各人が、単に好きなだけでは続かないことを悟り、日夜人知れず努力された結果であったと思う。

78年最高殊勲選手の安藤君及び79年最高殊勲選手の建部君は前記経験者の意味で枠外としても、79年本塁打王の塩瀬君、80年首位打者の金子君等はその意味での好例として私の記憶に新しい。

つまり、バミューグズを単なる仲良しクラブに墮落させないよう、当初から皆で密かに努力したことが、今日ある理由の第二番目であったのではないのでしょうか。

同好会的気配もあった。

賢明な諸兄であれば既にお気づきの通り、以上のような、いわば酸痛で苦しみばかりで我慢する考え方は、我がバミューグズには当初から存在しなかったのである。

苦しみぬき、耐え抜いて勝利をおさめた後には、楽しい宴会を必ず設定したのである。

では、創立当時の諸兄が試合終了もそこそこに宴会に駆けつけたかということ、決してそうではなかった。近所に銭湯があればまずそこで身を清めてから宴会へと臨んだ。

かくの如く、周囲に対する気配り思いやりの精神は、バミューグズ創立当時から確固たるものであったのである。

これがバミューグズの今日ある理由の第3番目ではありますが、私個人の思い入れとしては、これが最大の理由であり、今後永久に持ち続けて頂きたいポイントでもあります。

おわりに

バミューグズ創立から、早10年以上が経過した。私の全く知らない世代がバミューグズで活躍している時代に、手元に具体的な資料もないし、今更創生記でもあるまい。しかし当時हतとえ一人になっても戦いかねない、独立独歩の気概があった。こんなことを思いながら、当時のつたない記憶を頼りにやっとの思いでまとめた。

バミューグズの益々のご発展を祈りつつ結びとしたい。

いとしのバミューグズ

ビューポイント社長 佐々木 よう子

もう何年前になるのでしょうか？ 10年前ぐらいでしょうか？ ほんの数ヶ月しか参加していませんでしたが思い出は一杯！ 走馬

燈のように私の心を駆け巡ります。試合よりも試合後ガンガン飲んだビール、中華街での食事、多摩川での花火、松本ファミリー、小林剛さんの大声、塩瀬さんの練習中での足の骨折、内山さん担当の新聞、建部さんの華麗なピッチング、フェミニストの内山、樋口両氏が、実力の50%しか出さずいつも私を引きたててくれた事、両氏の落球を思わず笑い、塩瀬さんに「ササキ歯を見せるな」と注意された事、あー今も笑ってしまう失礼！でも何と言っても一番うれしかったのは、小さい記事だったけどサンスポに「女子選手と外人のいるチーム……うんぬん」と載った事。今もその新聞は青春の思い出箱で輝いています。

現在、ソニーを退職し一業者として、写真の仕事で出入りしています。昨年、バミューダーズを介し大仕事が入り、倒産を免がれました！皆様のやさしい心遣いに感謝致しております。もっと態度を良くしていたなら、早くからおいしい仕事が入った事でしょう。私は早々に引退しましたが、バミューダーズは永遠です！

バミューダーズ♥マイ♥ラブ

バミューダズは永遠である

松本 哲郎

いつの日か、バミューダズの帽子が真赤に染まる日が来ることを、熱望している。私の心の中で、バミューダズ誕生の日々と、広島カープ苦闘の日々が重なり合い、そして消えていく。

私が野球を始めたのが、おそらく4才の春。糸巻きの球、手製のバット、布製のグラブ。戦後の焼跡で生まれた三角ベース……。

それが私にとって草野球のルーツとすれば、バミューダズは私の心の故郷である。

建部の左腕がうなり、安藤のミットに白球が吸い込まれていく。華麗な球さばきはサード神原。神主打法の内山。球に向かって常に体当たり、22番樋口。怠慢プレーに眼をつりあげて、キャッチャー塩瀬の面が飛ぶ。

そして続々と名選手の登場。直角カープの金子。終身4番の榎並。ギター片手の渡り鳥ショート藤本。バミューダズの紅一点佐々木。青い眼のホットコーナー、ポール。背走・逆シングルのセンター飯田。鉄砲肩の徳光。スピード違反北野兄弟。ホームランか三振か、バミューダズの池山こと小林。グマシ盗塁の居山。枯れたセンター油田。馬力の大橋、技巧の野村。個性、個性のオン・パレード。

それがバミューダズ魂。ああ、楽しかった草野球。嬉しきかなバミューダズ。優勝してくれた広島カープ。日本経済の発展と通商問題の解決の為には、巨人の優勝が望ましい。世界平和と核兵器の廃止の為には広島カープの優勝が必要である。しかし人類にとって、最も重要な全人類の幸せの為にバミューダズの永遠の存在が必要である。

世界に散らばるバミューダズの現役そしてOBの皆さん。声高らかにうたおうではないか。「バミューダズは永遠なり」と。

打倒バミューダズ

レコーズ投手 金子 治

「どうすればバミューダズに勝てるのか」毎年9月頃にオーシャンリーグの戦績表を見ながら考えている。一度でいいからレコーズを優勝させたい。そのためにはどうしても、バミューダズを倒さなくてはならないのだ。

両チームの戦力分析をすると、

◎バ軍の打撃力・B 守備力・A ベンチの
声のデカさ・ウルトラA 総合力・A

◎レ軍の打撃力・B 守備力・C 総合力・
B、でどう見ても不利な状況。しかし、こち
らにはバ軍を知り尽した移籍組が2人もいる。
「やり方次第では何とかなる」と毎年期待をし
ては、無残に敗れ去っている。

どーも変だ。総合力で多少(?)の差があ
るものの、バ軍の打撃力が相手であれば、

①先頭打者を出さない、②連打を浴びない、
③名前に「し」の入る打者は特に打たせない
④味方の守備を信じない、これを実行できれ
ば勝てる筈だった。ところが一見完璧に見え
るこの作戦には、重大な欠陥があったのだ。

その欠陥とは「相手がバミューダズである」
という点を深く考えなかったこと、野球にも
遊びにも、ついでに仕事にも手を抜かない、
バミューダズ魂を見落としたことだ。

バミューダズの強さは、よく打つとか声が
デカいとかではなく、予測を超えた力が窮地
で発揮できることである。

今度こそ、今年こそバミューダズを、そし
てバミューダズ魂を打ち砕くべく、レコーズ
魂に磨きをかけ打倒バミューダズを果たした
い。

(編集部・注) 金子治選手はバミューダズ
のライバル、レコーズのエースであるとともに、
古くからのバミューダズの有力メンバー
でもあり、首位打者一回、投手としても通算
15勝(歴代四位)という実績を誇る。

悦楽的野球

レコーズ 三浦 和夫

何といやらしい男たちだろう。たかが草野
球に。目の色が違う。明らかに勝ちにきてい
る——あたりまえか。

たまの土曜日の野球。気楽に勝たしてくれ
よ。明日は彼女とのデート、ここで全ての力
を使うわけにはいかない。

みんなの目が光っている。監督が吠えてい
る。俺はなんというチームと戦ったのだろう
——ばみうだ〜ず? なんてふざけた名前な
んだ。なんでこんなに元気なんだ。

私がバミューダズと対戦した時、最初に感
じた事である。最近いっだったかブルータス
という雑誌の中で高橋三千綱がこういう事を
書いていた。“草野球を楽しむ男たちは昔、自
分が少年であった事を誇りに思っている者た
ちだ”——と。

いずれにせよ、悦楽的野球をやりたいと、
思っている今日このごろではある。

(編集部・注) 三浦選手はバミューダズのライ
バル、レコーズの中心打者であるとともに、
バミューダズの有力選手でもある。

長打率の高い強打者であり、投手としても
89年夏のソニー選手権での力投で有名である。

バミューダズ300試合達成を 心より祝して

「山ゆり」 オーナー 白石 禎子

バミューダズとヴィラ山ゆりとの出会いは
今をさかのぼること5年—即ち山ゆりがオー
プンした1985年からの付き合いで大事なお
客様なのです。

最初のうちは野球とは関係なく、渋谷様率いる独身の方たちの憩いの場として、春・秋に遊びに来て下さり、楽しくテニスをなさっては夜の飲み会。さすがはソニーさん、ビデオはお手のもので、カメラマンは居山様。インタビュアーは徳光様。突然のフロントでのインタビューにとまどったのも、懐しい思い出の一つです。

後日そのテープをわざわざお届け下さり、飲み会の様子を垣間見ることができました。密室の中で皆さん和気あいあい手料理を造ったり、見事な包丁さばきでお魚をおろされたり。ロッジをこのように自由にまた有意義に利用して下さっているのを拝見しました。何も解らず山ゆりの経営をはじめた私にとってそれは貴重なテープとなり、ロッジ経営のノウハウを逆に教えていただいたのでした。

今ではお客様というより家族の一員。皆さん私の大事な子供達(失礼をお許し下さい)というのが実感です。

一昨年からはシーズンに先駆け山ゆりでの

春季合宿が恒例となりました。塩瀬監督の指揮下、メンバーの皆様がハードなメニューを精力的にこなされるのを拝見し、このエネルギーあってこそ300試合を達成なさることが出来たのだ、と大きな大きな拍手を送らせて頂きます。

当初の独身メンバーも、居山様を皮切りにお一人またお一人とめでたくゴールインされ昨年はリーダー渋谷様もめでたくご結婚されました。私も今や孫の心配をする羽目となって参りました。山ゆり託児所でも準備して、家族ぐるみの伊豆旅行を年中行事とさせて頂ける日が来ればいいなと夢を描いております。バミューダズご繁栄の糧になれば、こんな嬉しい事はございません。

何時も笑みを絶やさず、かいかいしくお世話をなさっている女子親衛隊の皆さん、伊豆のママはまだまだ健在ですよ。これからもう一緒にバミューダズの為に頑張らしましょうね。

(山ゆり……伊豆のママからの

祝福メッセージ)

緑の中の静かな貸別荘
テニス、ゴルフなどに最適



伊豆高原
リゾートヴィラ

山ゆり

IZUKOGEN
RESORT VILLA YAMAYURI

本館 〒413-02伊東市八幡野1030-93番地
TEL<0557>54-1982・51-2082

バミューダズ・タイムズ名場面集



選手紹介

- ①ポジション ②投・打 ③身長・体重
④入団年度 ⑤出身地 ⑥生年月日
⑦受賞タイトル ⑧寸評 ⑨趣味

3 O 塩沢順三 監督

- ①投・内・外②右投・右打③175cm, 76kg
④76年入団⑤京都府⑥48年5月23日生
⑦盗塁王(77), 本塁打王(79), 雷電賞(80),
MVP(82, 83), 沢村賞(86), 優秀投手賞(87),
最優秀投手賞(88), ベスト・コラー賞(89)
⑧めざすは500試合出場。コ, コラー事件
(外野・本塁光速移動)など話題は尽きない。
⑨競馬予想, 読書, 大洋ホエールズ

1 O 藤本千代 監督(助監督)

- ①内 ②右投・右打 ③164cm, 61kg
④80年入団⑤愛知県⑥51年9月12日生
⑦敢闘賞(81), 盗塁王(83)
⑧『遊びに手を抜かない』お手本はこの人!
⑨徹夜の弾き語り, 東京⇄佐久 光速ドライブ

1 建部英敏

- ①投・外②左投・左打③172cm, 68kg
④76年入団⑤東京都⑥51年4月22日生
⑦MVP(79, 81, 89)
最優秀投手賞(84), 沢村賞(88)
⑧いつまでも若さを失わない本格派エース。
⑨ギター, テニス, ものまね(森進一ほか)

2 中島みゆき

- ①投・内②右投・右打③169cm, 57kg
④83年入団⑤長野県⑥59年6月17日生
⑦MVP(84) 首位打者賞(85)
ゴールデンバット賞(89)
⑧ST両巨頭をしのぐ新エースとして期待大。
⑨アニメのことならなんでも! 中島みゆき

3 岡本直樹

- ①内 ②右投・右打 ③171cm, 62kg
④88年入団⑤福岡県⑥63年6月5日生
⑧内野のキーマンとしての飛躍が期待される。
⑨ドライブ(東大赤門激突事件で上達)

4 北野博基

- ①内・投②右投・左打③165cm, 58kg
④84年入団⑤福岡県⑥57年4月18日生
⑦ファンクラブ企画推進賞(85)
盗塁王(86), 優秀選手賞(87)
MVP(88), まだイナズマン賞(89)
⑧どこでも守れるユティリティープレーヤー。
⑨スポーツ全般, レジャー企画

5 小本 剛

- ①外・内②右投・右打③175cm, 75kg
④77年入団⑤広島県⑥50年8月30日生
⑦新人王(77)
⑧ファイトマン, ついにシンガポールより復帰
⑨広島カープ, ゴルフ

6 松本哲郎

- ①内 ②右投・右打 ③174cm, 68kg
④76年入団⑤広島県④4年1月11日生
⑦MVP(76), タブチ賞(78)
⑧勝負強かったバッティング。いまは伝説の人。
⑨麻雀, 読書, 映画, 広島カープ

7 望月昭秀

- ①内 ②右投・右打 ③167cm, 58kg
④89年入団⑤静岡県⑥64年6月20日生
⑧内野のキーマンとしての飛躍が期待される
⑨野球, テニス, スキー

8 山本哲也

- ①補・外②右投・右打③180cm, 73kg
⑤89年入団⑥和歌山県⑥65年4月24日生
⑧有力捕手候補。超スラッガーの素質十分。
⑨寝ること, 映画, 旅行

1 1 鎌田俊哉

- ①補・外②右投・右打③170cm, 65kg
- ④87年入団⑤東京都⑥63年7月25日生
- ⑧インサイドワークよりヤジで勝負の異色捕手。
- 今後の成長が期待される。
- ⑨写真撮影

1 2 吉武和則

- ①内 ②右投・右打 ③171cm, 54kg
- ④87年入団⑤鹿児島県⑥61年8月29日生
- ⑧淡々と打ち、守る。グラウンドでも仕事と
同じくらいに個性を発揮して欲しい。
- ⑨宴会、アフリカ旅行、野生動物撮影

1 3 鬼頭英二

- ①内 ②右投・左打 ③175cm, 70kg
- ④81年入団⑤東京都⑥57年1月13日生
- ⑧長打力あり。中近東アフリカより久々に復帰。
- ⑨野球、テニス

1 4 永嶋 仁

- ①外 ②右投・右打 ③174cm, 76kg
- ④83年入団⑤東京都⑥53年8月29日生
- ⑦ダイヤモンドグラブ賞(84)、ゴールデングラブ賞(86)、衣笠賞(87)
- ⑧この人も『手を抜かない』。87年の全試合
出場はすごい。外野守備と審判技術はピカ一。
- ⑨ジョギング、サッカー

1 5 飯田克美

- ①外・内②右投・左打③173cm, 70kg
- ④78年入団⑤兵庫県⑥47年11月20日生
- ⑧一塁はお任せ。七福神最長老はまだまだ若い。
- ⑨ゴルフ、テニス、スキー、トラキチ

1 6 比呂野牙佳基

- ①捕・内②右投・右打③165cm, 65kg
- ④87年入団⑤福岡県⑥66年5月6日生
- ⑦新人王(87)、ベストコンバート賞(88)
ゴールデングラブ賞(89)
- ⑧90年春卒業。学生野球から社会人野球へ、
バミューダズ栄光への道は、まだこれからだ。
- ⑨阪神タイガース。

1 7 浅谷和明

- ①投・内②右投・右打③174cm, 70kg
- ④82年入団⑤新潟県⑥58年11月7日生
- ⑦新人王(82)、最優秀救援投手賞(85)、
MVP(86, 87)、スーパースラッガー賞(88)
- ⑧強打好守。これからの10年間で全盛期と
思い精進してほしい。
- ⑨音楽演奏、麻雀、テニス、スキー、車、旅行

1 8 榎立 隆

- ①捕・外・投②右投・右打③174cm, 74kg
- ④79年入団⑤新潟県⑥55年8月8日生
- ⑦MVP(80)
- ⑧伝説の四番打者、新潟から復帰。今期は頼むぞ。
- ⑨酒、釣り

1 9 内山秀敏

- ①外・内②右投・右打③165cm, 70kg
- ④76年入団⑤神奈川県⑥49年7月6日生
- ⑦ビューリッツァー賞(85)
- ⑧今や原稿用紙が主戦場? どこまで行ける
最長不倒七福神。夏合宿を乗りきれるか?
- ⑨テニス、スキー、卓球、ラグビー、

2 0 吉田 洋

- ①外 ②右投・右打 ③168cm, 62kg
- ④83年入団⑥大阪府⑥61年2月14日生
- ⑦新人王(84)
- ⑧意外な長打と意外な守備力。バ軍中国雑技団。
- ⑨将棋、薬師丸ひろ子、阪神、西武

2 1 三浦和男

- ①投・内②右投・右打③170cm, 64kg
- ④84年入団⑤香川県⑥61年8月12日生
- ⑦新人王(85)、首位打者賞(86)
- ⑧レコーズ兼務。バ軍出場の増加を期待したい。
- ⑨麻雀

2 2 山下謙二

- ①捕②右投・右打 ③174cm, 90kg
- ④90年入団⑤東京都⑥60年11月27日生
- ⑧樋口以来の重量級。巨体をどう活かす?
- ⑨ゴルフ、麻雀、酒

24 徳光 女台

- ①捕・外②右投・右打③163cm, 60kg
 ④80年入団⑤大分県⑥57年5月25日生
 ⑦本塁打王(82, 86), 盗塁王(84), MVP(86),
 谷岡ヤスジ賞(87), 脱四天王賞(88)
 ⑧近頃徳光がツマラナイ。多重人格復活を望む。
 ⑨酒, カラオケ, 映画, 読書, 英会話, 放浪僻

25 尾崎 毅

- ①外・内②右投・右打③176cm, 67kg
 ④90年入団⑤東京都⑥65年10月17日生
 ⑧第x期黄金時代を担う有望新人。
 ⑨広島カープ, 旅行

26 鈴木満夫

- ①投・外②右投・右打③170cm, 67kg
 ④81年入団⑤東京都⑥50年5月13日生
 ⑦新人王(81), 最優秀投手賞(82)
 ⑧職人芸の守備。たまには登板してほしい。
 ⑨パチンコ, 車, 酒

27 金子 治

- ①投・内②左投・右打③173cm, 60kg
 ④77年入団⑤千葉県⑥55年1月9日生
 ⑦最優秀投手賞(77), 首位打者賞(80)
 ⑧レコーズ兼務。この人のヒネ球はバ軍もなか
 なか打てない。バ軍での出場増加を期待する。
 ⑨松下ゴロシ(松下戦では特に活躍)

28 外山勝望

- ①外・内②右投・右打③164cm, 52kg
 ④89年入団⑤静岡県⑥67年2月11日生
 ⑧第x期黄金時代を担う有望新人。⑨音楽鑑賞

29 厩山由彦

- ①内・外②右投・右打③166cm, 61kg
 ④79年入団⑤東京都⑥54年7月24日生
 ⑦盗塁王(79), ベストプレス賞(89)
 ⑧近年はジャーナリスト/芸人としての名声
 が高まるばかり。もうひと花咲かせてほしい。
 ⑨カラオケ, 映画, テニス, 講談(実演)

西独勤務

奥 昌雄(西独勤務)

- ①内 ②右投・右打 ③170cm, 62kg
 ④83年入団⑤福岡県⑥59年4月5日生
 ⑦新人王(83), カムバック賞(85)
 シルバークラウド賞(87)
 ⑧バミューダズのサードと言え『奥』。
 ⑨演劇鑑賞, ラグビー

ソニー・一宮勤務

- ①投・内②右投・右打③174cm, 74kg
 ④86年入団⑤愛知県⑥57年8月12日生
 ⑦新人王(86)
 ⑧顔に似合わぬ豪球投手。数多くの話題を提供。
 ⑨スキー, ヨット, 麻雀, POPS鑑賞

米国より帰国したばかり

- ①内 ②右投・右打 ③161cm, 52kg
 ④78年入団⑤東京都⑥54年4月12日生
 ⑦新人王(78)
 ⑧4月帰国。現在再起に向けてハビリ中。
 ⑨アイスホッケー, 宴会芸の開発(元宴会部長)

西独一韓国勤務

- ①内・外②左投・左打③178cm, 68kg
 ④83年入団⑤埼玉県⑥59年2月24日生
 ⑧強肩強打。出場回数は少ないが強烈な印象。
 ⑨テニス

米国勤務

- ①捕・外②右投・右打③171cm, 80kg
 ④85年入団⑤新潟県⑥60年8月10日生
 ⑧重厚な守備。迫力ある走塁。まさに重戦車。
 ⑨俳句, 短歌鑑賞, 『瞬間芸』の開発

米国勤務

- ①内・投②右投・右打③174cm, 70kg
 ④80年入団⑤東京都⑥57年10月15日生
 ⑦新人王(80), 首位打者賞(82),
 国民栄誉賞(84)
 ⑧渡米までバ軍の主力打者。復帰が待ち遠しい。
 ⑨パーティー, バレーボール

OB及びマネージャー紹介

○ B (①ポジション ②活動期間 ③受賞タイトル)

安藤 燦明 ①捕・内②76～86③本塁打王(77), MVP(78)
 神原 貞明 ①内 ②76～79③MVP(77)
 加藤 千武 ①外・内②76～79③技能賞(78)
 浅井田 貴 ①内・投②76～80
 油田久二雄 ①外 ②77～80③衣笠賞(79)

滝川 貞夫 ①内・ ②77～79, 83～87③カムバック賞(83)
 佐々木よう子 ①内 ②78～80
 樋口 謙三 ①外 ②78～86③三ッ龍賞(79)
 守屋 文彦 ①内 ②78～80
 植山周一郎 ①内 ②79～80③新人王(79)

PAUL FRAKER ①内 ②79～80, 86
 鐘江 美親 ①内・投②79～85
 野村 茂 ①内 ②79～83
 古川 遼人 ①外・内②80～83
 MARTY RATHS ①内 ②80～81

田中 啓介 ①内 ②80～82
 JOHN YOUNGBLOOD ①内 ②81～82
 TOM DICKENS ①内 ②82
 横野 滋 ①内 ②82～85
 松本 浩昭 ①外 ②83～87③春団治賞(86)

西村 馨 ①内 ②83～87
 高垣 浩一 ①内・投②86～87
 若泉 浩二 ①外 ②86
 坂本 祐二 ①内 ②86～87
 谷川 治仁 ①外・内②86

高木 義博 ①投・内②87～88
 江口 知仁 ①内 ②87
 岡南 聡 ①外 ②87
 生永 直秀 ①投・外②87～88
 DAN KRISKALLA ①内②88～89

歴代マネージャー

土屋 京子さん(現姓高橋) 76～77
 小美野久世さん(現姓加藤) 77～78
 竹内 洋子さん(現姓バイヤー) 79
 池田加代子さん 79～80
 青柳 恵子さん 79～83
 藤沢 直子さん 81～83
 平垣満利子さん 83～85
 横田 明佳さん 87～88
 鈴木 恵子さん 89～90

記 録 集

1987年度 打撃成績

順位	選手名	打率	試合	打席数	打数	得点	安打	打点	盗塁	犠打	四死球	三振	残塁	本塁打	三塁打	二塁打
1	谷 北野 (傳)	.342	31	94	79	21	27	18	21	1	14	11	23	3	2	6
2	北野 (傳)	.342	28	90	79	22	27	13	36	0	11	15	11	0	3	2
3	徳 光嶋	.307	30	87	75	19	23	16	21	2	10	8	19	1	1	3
4	永 永嶋	.291	31	97	86	23	25	17	32	2	9	2	22	0	2	9
5	飯 田	.278	16	46	36	9	10	4	3	1	9	2	10	0	0	2
6	奥 瀬	.224	18	62	49	12	11	7	18	3	10	4	12	1	1	1
7	塩 瀬 (雅)	.196	27	67	56	10	11	7	7	2	19	13	15	0	3	2
8	野 本	.179	19	41	39	6	7	3	3	2	0	5	3	0	1	0
9	藤 内	.167	18	49	42	12	7	5	13	0	7	7	6	0	0	1
10	本山	.094	17	35	32	2	3	2	1	1	2	6	4	0	0	0
11	鈴 木 (規定打席31以上)	.059	15	39	34	5	2	2	5	2	3	3	2	0	0	0
	高坂 木本	.500	1	2	2	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0
	浦内 田	.400	2	5	5	0	2	2	1	0	0	2	2	0	0	0
	三竹 吉	.364	8	23	22	3	8	6	3	0	1	5	5	1	0	2
	子 嶋	.353	11	22	17	4	6	3	4	2	3	2	5	0	0	3
	金宮 嶋	.286	9	21	21	7	6	6	6	0	0	5	3	1	1	1
	高 嶋	.267	8	17	15	0	4	2	0	1	1	3	5	0	0	1
	宮 嶋	.250	3	4	4	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0
	高 嶋	.250	2	5	4	1	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0
	鍵 田	.231	6	16	13	2	3	1	2	0	3	1	6	0	0	1
	江 口	.200	5	6	5	2	1	0	1	0	1	2	0	0	0	0
	吉 武	.167	4	7	6	0	1	1	1	0	1	1	2	0	0	0
	居 山	.160	12	28	25	0	4	3	4	0	3	2	4	1	0	0
	金 子	.143	3	8	7	2	1	1	0	1	0	2	0	0	0	0
	岡 南	.000	3	8	6	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	松 本	.000	3	7	4	0	0	1	1	1	2	0	2	0	0	0
	滝 川	.000	2	6	6	1	0	1	0	0	0	2	1	0	0	0
	生 永	.000	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	高 橋	.000	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
合 計		.249	31	894	771	172	192	123	184	22	101	104	163	8	14	34

1987年度 投手成績

順位	投手名	試合	勝利	敗戦	セーブ	回数	打者	奪三振	被安打	四死球	失点	自費点	防御率
1	塩 瀬	14	9	3	0	71	2/3	290	49	46	23	31	1.47
2	谷 北野 (傳)	10	5	1	2	39		168	31	20	26	18	1.79
3	北野 (傳)	11	4	3	0	45	2/3	198	24	25	28	23	2.15
4	内 浦	5	2	0	0	15	1/3	69	14	10	11	9	2.28
5	三 浦	3	1	0	1	13		53	16	2	14	4	0.54
6	金子 (治)	3	1	0	1	12		45	10	9	1	6	2.92
7	生 永	1	0	0	1	2		7	1	1	1	0	0.00
合 計		31	22	7	5	198	2/3	830	145	113	104	91	1.76

1988年度 打撃成績

順位	選手名	打率	試合	打席数	打数	得点	安打	打点	盗塁	犠打	四死球	三振	残塁	本塁打	三塁打	二塁打
1	北野 (博)	.346	26	94	78	22	27	9	31	1	15	7	20	0	0	4
2	北野 (雅)	.333	26	82	62	27	21	19	15	4	16	4	17	0	1	7
3	奥谷	.333	18	54	45	13	15	3	13	0	19	6	13	0	1	4
4	洪徳	.314	28	89	70	23	22	23	15	1	19	7	23	2	1	6
5	谷光	.313	21	57	51	10	16	8	9	1	5	5	8	1	0	8
6	建宮 部	.275	15	48	40	6	11	12	5	1	7	2	13	1	0	1
7	宮嶋	.270	15	43	37	10	10	6	10	1	5	4	8	1	0	2
8	永嶋	.265	28	76	68	9	18	12	11	5	3	5	16	0	1	3
9	藤本	.240	23	59	50	6	12	6	8	1	8	5	13	1	2	1
10	塩瀬	.228	29	67	57	11	13	7	12	2	8	16	13	0	2	4
11	吉岡 田	.220	18	46	41	11	9	4	13	1	4	4	11	0	1	1
12	岡居 南山	.194	15	36	31	7	6	7	5	1	4	5	6	0	1	0
13	(規定打席32以上)	.179	13	32	28	5	5	5	6	0	4	0	6	0	1	2
	吉高 武木	.500	2	4	4	2	2	2	1	0	0	1	1	0	0	1
	飯子	.500	1	2	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	金竹 (治)	.389	7	19	18	3	7	4	0	1	0	1	5	0	0	1
	内子	.294	6	18	17	3	5	2	2	1	1	0	0	0	0	0
	永本	.263	9	20	19	4	5	3	2	0	1	4	2	0	0	3
	生岡 永本	.250	3	5	4	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0
	三鈴	.240	15	27	25	1	6	3	3	1	1	6	3	0	1	0
	鍵田	.200	18	20	15	6	3	5	4	0	5	0	5	1	0	1
	内山	.167	11	29	24	4	4	4	2	0	4	1	3	0	0	1
	DAN	.100	15	30	20	6	2	6	8	0	10	2	8	0	0	0
	内山	.087	14	29	23	3	2	1	1	3	3	9	2	0	0	1
	横田	.000	1	3	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
	DAN	.000	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
合 計		.268	32	991	833	193	223	152	176	24	134	95	199	7	17	51

1988年度 投手成績

順位	投手名	試合	勝利	敗戦	セーブ	回 数	打 者	奪三振	被安打	四死球	失点	自責点	防御率
1	塩瀬 部	12	8	2	1	60	247	42	39	22	17	8	0.93
2	建宮子	10	6	0	1	40	156	40	21	12	12	7	1.23
3	金官	6	4	0	0	30	115	32	19	4	11	8	1.87
4	北野	6	2	1	1	23	101	20	19	12	12	6	1.83
5	(博)	3	2	1	0	17	79	8	13	17	13	6	2.47
6	洪 谷	5	1	1	0	25 1/3	113	14	20	16	18	11	3.04
7	三 浦	1	0	0	1	2	7	3	0	2	0	0	0.00
8	生 永	2	0	0	1	5	21	4	2	2	2	0	0.00
9	鈴 木	1	0	0	0	1	6	1	1	1	0	0	0.00
10	竹 内	1	0	1	0	1	9	0	0	6	3	3	21.00
合 計		32	23	6	5	204 1/3	854	164	134	94	88	49	1.68

1989年度 打撃成績

順位	選手名	打率	試合	打席数	打数	得点	安打	打点	盗塁	犠打	四死球	三振	残塁	本塁打	三塁打	二塁打
1	建部	.345	12	34	29	7	10	2	3	1	4	0	8	0	2	4
2	宮嶋	.341	17	53	44	10	15	13	9	2	7	3	10	2	1	4
3	北野	.333	19	60	51	13	17	9	5	2	7	6	10	0	3	2
4	藤本	.297	15	40	37	5	11	9	9	1	2	4	9	1	1	3
5	塩瀬	.292	20	35	24	5	7	2	8	2	9	2	10	0	0	1
6	岡本	.261	9	24	23	8	6	2	1	1	0	3	1	0	1	0
7	北野(博)	.239	17	55	46	10	11	4	22	0	9	4	9	0	0	3
8	洪谷	.211	20	66	57	16	12	5	6	1	8	12	11	0	2	0
9	吉田	.190	18	46	42	4	8	5	7	1	3	5	7	1	1	1
10	徳光	.179	13	29	28	4	5	2	3	0	1	7	5	0	2	1
11	永居嶋	.152	17	54	46	7	7	9	6	2	6	4	8	0	1	3
12	山(規定打席23以上)	.053	9	26	19	3	1	1	1	3	4	1	0	0	0	1
	金子(治)	.500	1	4	4	0	2	1	1	0	0	2	1	0	0	1
	韓浦	.400	2	5	5	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	1
	三奥	.300	4	10	10	2	3	2	2	0	0	2	2	1	0	1
	吉武	.286	3	7	7	1	2	1	0	0	0	1	2	0	0	0
		.250	8	20	16	3	4	3	2	1	3	6	5	0	0	2
	鈴木	.214	6	15	14	1	3	0	1	0	1	2	3	0	0	1
	山飯	.200	2	5	5	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	内外	.182	5	15	11	0	2	0	1	0	4	2	4	0	0	0
		.167	10	22	18	1	3	2	1	1	3	6	4	0	0	0
		.143	5	7	7	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	望月	.063	8	18	16	0	1	0	1	0	2	6	4	0	0	0
	鍵田	.000	7	18	14	0	0	1	5	0	4	2	7	0	0	0
	竹内	.000	2	5	4	0	0	0	1	0	1	2	1	0	0	0
	横井	.000	1	4	3	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
	石村	.000	1	2	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
合 計		.231	27	679	581	102	134	73	9.5	18	80	85	124	6	14	29

1989年度 投手成績

順位	投手名	試合	勝利	敗戦	セーブ	回数	打者	奪三振	被安打	四死球	失点	自責点	防御率
1	建部	10	5	1	1	54	204	59	32	10	12	5	0.65
2	宮嶋	8	4	1	0	32 2/3	129	25	12	15	11	8	1.71
3	塩瀬	11	3	4	1	46 1/3	211	30	36	18	34	12	1.81
4	金子(治)	1	1	0	0	3	12	5	2	0	0	0	0.00
5	三浦	2	0	1	1	8	33	5	3	6	1	1	0.88
6	北野(博)	2	0	1	0	6	33	3	7	5	6	3	3.50
合 計		27	13	8	3	150	622	127	92	54	64	29	1.35

(他に、不戦勝1・不戦敗3)

1976年度～1989年度 通算打撃成績

順位	選手名	打率	試合	打席数	打数	得点	安打	打点	盗塁	犠打	四死球	三振	残塁	本塁打	三塁打	二塁打
1	大宮 橋嶋	.361	68	219	191	62	69	51	64	1	27	6	48	8	7	14
2	大宮 部	.338	88	263	213	73	72	59	67	6	44	19	50	7	5	16
3	大宮 並	.311	139	447	341	93	105	88	56	8	98	16	123	11	16	21
4	大宮 野(雅)	.307	54	200	166	52	51	39	47	2	32	14	44	4	4	8
5	大宮 野	.296	64	183	152	46	45	31	23	8	23	15	30	0	5	9
6	北野(博)	.285	128	408	330	93	94	41	141	7	71	45	71	1	5	15
7	北野 谷	.267	175	524	446	126	119	102	91	11	67	57	104	12	18	29
8	飯 奥	.264	96	291	235	62	62	36	84	6	50	27	59	6	6	10
9	飯 田	.261	65	201	165	34	43	27	22	4	32	20	46	2	1	8
10	飯 光	.257	183	566	460	142	118	101	140	7	99	52	117	15	9	38
11	永藤 嶋本	.249	145	428	369	70	92	65	102	10	49	19	96	1	5	31
12	永藤 藤	.23438	152	460	384	95	90	59	130	2	74	40	96	7	9	17
13	永藤 瀨田	.2353	62	187	167	27	39	27	25	1	19	26	27	4	1	8
14	安塩 吉	.230	257	703	551	132	127	96	105	15	137	146	151	16	14	38
15	安塩 田	.221	91	216	199	36	44	29	41	2	15	36	39	3	4	9
16	金子(浩)	.214	101	295	266	38	57	38	40	3	26	60	48	1	1	9
17	山本 林	.211	147	452	350	87	74	39	92	7	95	47	85	2	4	11
18	鈴木 本	.199	118	333	292	51	58	42	49	6	35	25	51	0	2	12
19	小松 哲	.194	62	194	165	27	32	30	28	1	28	47	35	3	2	10
20	小松 哲	.180	61	205	172	22	31	13	31	1	32	27	49	1	2	6
21	内 山	.138	155	354	312	29	43	36	17	9	33	71	51	0	5	5
(打席数 150以上=300×1/2)																
	三浦 韓	.362	45	122	105	33	38	32	32	2	15	10	30	6	1	12
	三浦 野川	.308	12	31	26	3	8	9	5	1	4	6	7	1	1	0
	横古 川	.300	13	36	30	8	9	6	7	0	6	5	8	0	0	0
	野村(尚)	.283	21	56	53	12	15	5	10	0	3	5	9	0	1	1
	野村(尚)	.273	29	88	66	19	18	14	17	0	22	9	21	2	2	2
	吉竹 武内	.269	14	31	26	5	7	6	4	1	4	8	8	0	0	3
	吉竹 川	.266	36	79	64	15	17	13	16	3	12	10	16	0	0	6
	滝岡 子(克)	.254	28	84	67	19	17	10	18	2	15	7	19	0	0	1
	金子(克)	.250	24	51	48	9	12	5	4	2	1	9	4	0	2	0
	金子(克)	.229	40	90	83	10	19	10	13	2	5	17	18	1	1	3
	PAUL FRAKER	.220	23	60	50	7	11	8	5	1	9	19	14	0	3	2
	浅井 田	.218	23	67	55	7	12	6	10	0	12	14	21	0	0	3
	神原(浩)	.21212	11	44	33	9	7	2	8	0	11	5	7	0	0	2
	松本 田	.21176	44	98	85	17	18	17	7	7	6	13	18	0	0	3
	油 田	.176	29	99	74	20	13	9	15	0	25	21	24	0	1	3
	加鐘 藤江	.169492	26	69	59	7	10	8	6	1	9	19	15	0	1	3
	加鐘 屋田	.169492	23	68	59	11	10	1	9	0	9	8	8	0	1	2
	守 鍵	.160	15	31	25	4	4	2	8	0	6	13	7	0	0	0
	鍵 田	.106	28	64	47	8	5	8	15	0	17	5	21	0	0	1
	鍵 田	.091	16	45	33	7	3	5	7	0	12	10	6	1	0	0
	樋 口	.069	54	115	87	12	6	4	0	0	28	45	20	0	0	1
(打席数 30以上～149 まで)																

1976年度～1989年度 通算投手成績

順位	投手名	試合	勝利	敗戦	セーブ	回数	打者	奪三振	被安打	四死球	失点	自責点	防御率
1	塩 瀬	124	64	25	3	597	2,563	504	405	295	283	156	1.83
2	建 部	101	52	13	9	497 2/3	1,960	570	307	126	181	111	1.56
3	宮 嶋	37	18	8	1	168	685	149	97	81	56	32	1.33
4	金子 (浩)	36	15	7	2	165 1/3	753	170	148	79	114	74	3.13
5	洪 谷	32	11	4	3	115 1/3	507	95	66	77	55	30	1.82
6	鈴 木	29	11	5	0	118 1/3	531	94	84	77	71	47	2.78
7	三 浦	19	6	3	6	68 1/3	288	77	27	52	25	17	1.74
8	北野 (博)	20	6	5	1	74 2/3	341	42	48	60	47	25	2.34
(以上は投球回数50回以上の投手)													
	竹 内	8	4	1	0	27	124	23	17	25	16	10	2.59
	榎 並	7	1	2	1	28 1/3	132	22	20	24	23	15	3.71
	鐘 江	1	1	0	0	3	14	0	2	4	1	1	2.33
	大 橋	3	0	2	0	10	51	7	7	11	6	2	1.40
	松本 (哲)	5	0	2	0	11	71	2	17	14	24	11	7.00
	浅井 田	1	0	1	0	6 1/3	36	4	4	7	5	4	4.42
	高生 木	1	0	1	0	4 2/3	22	3	5	4	3	2	3.00
	藤 永	3	0	0	2	7	28	5	3	3	2	0	0.00
	永 本	2	0	0	0	4	15	6	1	2	1	1	1.75
	嶋 本	2	0	0	0	2	10	1	3	1	5	2	7.00
	高 垣	1	0	0	0	2	10	4	0	3	0	0	0.00
	徳 光	1	0	0	0	1/3	3	1	1	1	0	0	0.00
(以下略)													

歴代ベスト3

	項 目	1 位	記録	2 位	記録	3 位	記録
打 撃 部 門	出場試合数	塩 瀬	257	徳 光	183	洪 谷	175
	通算打率 (150打席以上)	大 橋	361	宮 嶋	338	建 部	311
	安 打	塩 瀬	127	洪 谷	119	徳 光	118
	打 点	洪 谷	102	徳 光	101	塩 瀬	96
	得 点	徳 光	142	塩 瀬	132	洪 谷	126
	盗 塁	北野 (博)	141	徳 光	140	藤 本	130
	本塁打	塩 瀬	16	徳 光	15	洪 谷	12

	項 目	1 位	記録	2 位	記録	3 位	記録
投 手 部 門	出場試合数	塩 瀬	124	建 部	101	宮 嶋	37
	通算勝利	塩 瀬	64	建 部	52	宮 嶋	18
	通算防御率 (投球回数50回以上)	宮 嶋	1.33	建 部	1.56	三 浦	1.74
	奪三振	建 部	570	塩 瀬	504	金子 (浩)	170

1976年度～1989年度 チーム通算打撃成績

年 度	試 合	打 席 数	打 数	得 点	安 打	打 点	盗 塁	犠 打	四 死 球	三 振	残 塁	打 率	本 塁 打	三 塁 打	二 塁 打
1976	3	89	73	8	15	8	6	0	16	8	21	.205	1	0	4
1977	8	256	215	45	46	36	37	1	40	49	53	.214	5	4	10
1978	15	443	363	59	64	41	95	2	78	100	88	.176	3	6	10
1979	17	560	440	101	110	83	72	5	115	105	133	.250	9	7	20
1980	24	769	632	132	137	92	123	4	133	112	169	.217	7	7	31
1981	19	645	541	131	139	94	110	3	101	100	136	.257	11	10	26
1982	22	706	597	148	145	111	111	4	105	89	130	.243	16	14	27
1983	25	780	665	142	150	110	171	11	104	88	152	.226	13	11	24
1984	26	783	616	184	149	138	167	10	157	85	149	.242	14	16	35
1985	27	738	609	125	138	87	144	11	118	75	158	.227	7	12	34
1986	30	836	686	191	182	140	208	29	121	116	152	.265	14	13	47
1987	31	894	771	172	192	123	184	22	101	104	163	.249	8	14	34
1988	32	991	833	193	223	152	176	24	134	95	199	.268	7	17	51
1989	27	679	581	102	134	73	95	18	80	85	124	.231	6	14	29
累 計	306	9169	7622	1733	1824	1288	1699	144	1403	1211	1828	.239	121	145	382

1976年度～1989年度 チーム通算投手成績

年 度	試 合	勝 利	敗 戦	引 分	セ ー ブ	回 数	打 者	奪 三 振	被 安 打	四 死 球	失 点	自 責 点	防 御 率
1976	3	2	0	1	0	20	78	27	5	7	5	2	0.70
1977	8	4	4	0	0	52	238	55	54	22	50	32	4.31
1978	15	7	4	4	0	100	440	109	71	59	56	35	2.45
1979	17	10	6	1	0	108	490	122	104	48	77	52	3.35
1980	24	17	4	3	4	160	690	145	93	108	62	36	1.57
1981	19	10	7	2	0	123	560	135	107	61	95	59	3.35
1982	22	12	6	4	2	147	635	142	110	77	88	58	2.76
1983	25	14	10	1	1	164	711	126	118	86	78	43	1.83
1984	26	17	8	1	0	158	638	145	97	63	59	31	1.37
1985	27	19	4	4	2	157	642	155	78	71	49	30	1.33
1986	30	22	6	2	6	178	778	193	110	105	76	41	1.61
1987	31	22	7	2	5	198	830	145	113	104	91	50	1.76
1988	32	23	6	3	5	204	854	164	134	94	88	49	1.68
1989	27	14	11	2	3	150	622	127	92	54	64	29	1.35
累 計	306	193	83	30	28	1922	8206	1790	1286	959	938	547	1.99

あ と が き

全国の草野球ファンの皆様、お待たせしました。バミューダズの300試合達成記念の球団誌第3号がついに発行されました。

これまでが記録重視型であったので、今回は編集方針を大きく転換し「究極の草野球」という文集をメインとしました。

選手をはじめとするチーム関係者の体験談や感想などを数多く掲載し、生きたバミューダズの姿をできるだけ明らかにすることで、野球のすばらしさ、奥深さをも表現したかったからです。

原稿を書いて下さった関係者各位に改めてお礼申し上げます。特筆すべきは徳光選手で表紙のイラストは今回も彼の手によるものです。

また今回は、全体のデザイン、レイアウトから製版、印刷まで一貫して日本クリエイト社の皆様のお世話になりました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

すでに400試合に向けての第一歩は踏み出されました。一試合、一試合を大切に、究極の草野球の完成を目指して、熱狂草野球軍団バミューダズはきょうも白球を追い続けます。

BERMUDAS no. 3

300試合達成記念

1990年5月発行

編集 球団誌第3号編集委員会一同

内山秀敏 藤本和彦 塩瀬正明
建部英敏 永嶋 仁 徳光 始
北野博基 渋谷和明 鈴木恵子

発行 熱狂草野球軍団 バミューダズ

表紙デザイン 井口 篤志
イラスト 赤坂 公恵
レイアウト (株)日本クリエイト
版下制作

THE DA



パミューダズ球団誌第3号

THE DA